

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	研究科の専攻の設置								
フリガナ設置者	コリツダガクホジシキョウシユダガク 国立大学法人 九州大学								
フリガナ大学の名称	キョウシユダガク 九州大学 (Kyushu University)								
大学本部の位置	福岡市西区元岡744								
大学の目的	九州大学は、教育基本法（平成18年法律第120号）の精神に則り、学術の中心として広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。								
新設学部等の目的	<p>本学府は、「九州大学教育憲章」に則り、主体性と工学分野の専門性、先進性、学際性、国際性の育成を目指す修士課程の教育、及びそこで培われた深い専門知識と課題探究・課題解決能力、先端的な創造性能力をより高度な水準に鍛え上げる博士課程の教育を通して、高い倫理感と国際性をもって我が国の工業技術を先導し、人類社会の課題解決に貢献する工学のプロフェッショナル、及び最先端の技術開発を担う研究者・技術者を養成することを目的とする。</p> <p>土木工学専攻は、構造物の設計・施工・維持管理に関する高度な専門知識と技術や都市・環境に多大な影響を及ぼす自然現象・社会現象の解明と予測に基づいた防災技術や社会システムなどを教育研究し、安全・安心で持続性のある社会を実現するため、高度専門知識を集積した土木技術と柔軟で創造性豊かな発想力を有する研究者・技術者を育成することを教育目的とする。</p>								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	大学院工学府 (Graduate School of Engineering) (修士課程) 土木工学専攻 (Department of Civil Engineering) 計	年	人	年次人	人	修士(工学) (Master of Engineering)	令和3年4月 第1年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地	【基礎となる学部】 工学部土木工学科
	(博士後期課程) 土木工学専攻 (Department of Civil Engineering) 計	3	16	-	48	博士(工学) (Doctor of Engineering)	令和3年4月 第1年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地	【基礎となる学部】 工学部土木工学科
	大学院工学府 (Graduate School of Engineering) (修士課程) 材料工学専攻 (Department of Materials) 計	2	43	-	86	修士(工学) (Master of Engineering)	令和3年4月 第1年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地	【基礎となる学部】 工学部材料工学科

(博士後期課程) 材料工学専攻 (Department of Materials) 計	3 10	10 10	- 0	30 30	博士 (工学) (Doctor of Engineering)	令和3年4月 第1年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地	【基礎となる学部】 工学部材料工学科
(修士課程) 応用化学専攻 (Department of Applied Chemistry) 計	2 68	68 68	- 0	136 136	修士 (工学) (Master of Engineering)	令和3年4月 第1年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地	【基礎となる学部】 工学部応用化学科
(博士後期課程) 応用化学専攻 (Department of Applied Chemistry) 計	3 18	18 18	- 0	54 54	博士 (工学) (Doctor of Engineering)	令和3年4月 第1年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地	【基礎となる学部】 工学部応用化学科
(修士課程) 化学工学専攻 (Department of Chemical Engineering) 計	2 30	30 30	- 0	60 60	修士 (工学) (Master of Engineering)	令和3年 4月 第1年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地	【基礎となる学部】 工学部化学工学科
(博士後期課程) 化学工学専攻 (Department of Chemical Engineering) 計	3 8	8 8	- 0	24 24	博士 (工学) (Doctor of Engineering)	令和3年 4月 第1年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地	【基礎となる学部】 工学部化学工学科
大学院 システム情報科学府 (Graduate School of Information Science and Electrical Engineering) (修士課程) 情報理工学専攻 (Department of Information Science and Technology) 計	2 105	105 105	- -	210 210	修士 (情報科学) (Master of Information Science) 修士(理学) (Master of Science) 修士(工学) (Master of Engineering) 修士(学術) (Master of Philosophy)	令和3年 4月 第1年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地	【基礎となる学部】 工学部電気情報工学科

(博士後期課程)								【基礎となる学部】 工学部電気情報工学科
情報理工学専攻 (Department of Information Science and Technology)	3	29	-	87	博士 (情報科学) (Doctor of Information Science) 博士(理学) (Doctor of Science) 博士(工学) (Doctor of Engineering) 博士(学術) (Doctor of Philosophy)	令和3年 4月 第1年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地	
計		29	-	87				
(修士課程)								【基礎となる学部】 工学部電気情報工学科
電気電子工学専攻 (Department of Electrical and Electronic Engineering)	2	65	-	130	修士 (情報科学) (Master of Information Science) 修士(理学) (Master of Science) 修士(工学) (Master of Engineering) 修士(学術) (Master of Philosophy)	令和3年 4月 第1年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地	
計		65	-	130				
(博士後期課程)								【基礎となる学部】 工学部電気情報工学科
電気電子工学専攻 (Department of Electrical and Electronic Engineering)	3	16	-	48	博士 (情報科学) (Doctor of Information Science) 博士(理学) (Doctor of Science) 博士(工学) (Doctor of Engineering) 博士(学術) (Doctor of Philosophy)	令和3年 4月 第1年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地	
計		16	-	48				
総合理工学府 (Interdisciplinary Graduate School of Engineering Sciences) (修士課程)								
総合理工学専攻 (Department of Interdisciplinary Engineering (博士後期課程)	2	172	-	344	修士(理学) 修士(工学) 修士(学術)	令和3年4月 第1年次	福岡県春日市 春日公園6丁目1番地	【基礎となる学部】 工学部融合基礎工学科
総合理工学専攻 (Department of Interdisciplinary Engineering Sciences)	3	62	-	186	博士(理学) 博士(工学) 博士(学術)	令和3年4月 第1年次	福岡県春日市 春日公園6丁目1番地	【基礎となる学部】 工学部融合基礎工学科
計		234	-	530				

工学部 (School of Engineering)									
電気情報工学科 (Department of Electrical Engineering and Computer Science)	4	153	-	612	学士 (工学) (Bachelor of Engineering)	令和3年 4月 第1年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地		
材料工学科 (Department of Materials)	4	53	-	212	学士 (工学) (Bachelor of Engineering)	令和3年 4月 第1年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地		
応用化学科 (Department of Applied Chemistry)	4	72	-	288	学士 (工学) (Bachelor of Engineering)	令和3年 4月 第1年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地		
化学工学科 (Department of Chemical Engineering)	4	38	-	152	学士 (工学) (Bachelor of Engineering)	令和3年 4月 第1年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地		
融合基礎工学科 (Department of Interdisciplinary Engineering)	4	57	3年次 20	268	学士 (工学) (Bachelor of Engineering)	令和3年 4月 第1年次 令和5年 4月 第3年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地 及び 福岡県春日市 春日公園6丁目1番地		
機械工学科 (Department of Mechanical Engineering)	4	135	-	540	学士 (工学) (Bachelor of Engineering)	令和3年 4月 第1年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地		
航空宇宙工学科 (Department of Aeronautics and Astronautics)	4	29	-	116	学士 (工学) (Bachelor of Engineering)	令和3年 4月 第1年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地		
量子物理工学科 (Department of Applied Quantum Physics and Nuclear Engineering)	4	38	-	152	学士 (工学) (Bachelor of Engineering)	令和3年 4月 第1年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地		
船舶海洋工学科 (Department of Naval Architecture and Ocean Engineering)	4	34	-	136	学士 (工学) (Bachelor of Engineering)	令和3年 4月 第1年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地		
地球資源システム工学科 (Department of Earth Resources Engineering)	4	34	-	136	学士 (工学) (Bachelor of Engineering)	令和3年 4月 第1年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地		
土木工学科 (Department of Civil Engineering)	4	77	-	308	学士 (工学) (Bachelor of Engineering)	令和3年 4月 第1年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地		
建築学科 (Department of Architecture)	4	58	-	232	学士 (工学) (Bachelor of Engineering)	令和3年 4月 第1年次	福岡県福岡市 西区元岡744番地		
計		720	20	3152					

同一設置者内における
変更状況
(定員の移行, 名称の変更
等)

工学部

<u>建築学科 (廃止)</u>	<u>(△58)</u>
<u>電気情報工学科 (廃止)</u>	<u>(△153)</u>
<u>物質科学工学科 (廃止)</u>	<u>(△163)</u>
<u>地球環境工学科 (廃止)</u>	<u>(△145)</u>
<u>エネルギー科学科 (廃止)</u>	<u>(△95)</u>
<u>機械航空工学科 (廃止)</u>	<u>(△164)</u>

※令和3年4月学生募集停止

工学部

電気情報工学科	(153)	(令和2年4月事前伺い)
材料工学科	(53)	(令和2年4月事前伺い)
応用化学科	(72)	(令和2年4月事前伺い)
化学工学科	(38)	(令和2年4月事前伺い)
融合基礎工学科	(57)	(令和2年4月事前伺い)
機械工学科	(135)	(令和2年4月事前伺い)
航空宇宙工学科	(29)	(令和2年4月事前伺い)
量子物理工学科	(38)	(令和2年4月事前伺い)
船舶海洋工学科	(34)	(令和2年4月事前伺い)
地球資源システム工学科	(34)	(令和2年4月事前伺い)
土木工学科	(77)	(令和2年4月事前伺い)
建築学科	(58)	(令和2年4月事前伺い)

工学府

<u>物質創造工学専攻 (廃止)</u>	
<u>修士課程</u>	<u>(△38)</u>
<u>博士後期課程</u>	<u>(△10)</u>
<u>物質プロセス工学専攻 (廃止)</u>	
<u>修士課程</u>	<u>(△30)</u>
<u>博士後期課程</u>	<u>(△9)</u>
<u>材料物性工学専攻 (廃止)</u>	
<u>修士課程</u>	<u>(△33)</u>
<u>博士後期課程</u>	<u>(△7)</u>
<u>化学システム工学専攻 (廃止)</u>	
<u>修士課程</u>	<u>(△35)</u>
<u>博士後期課程</u>	<u>(△10)</u>
<u>建設システム工学専攻 (廃止)</u>	
<u>修士課程</u>	<u>(△24)</u>
<u>博士後期課程</u>	<u>(△8)</u>
<u>都市環境システム工学専攻 (廃止)</u>	
<u>修士課程</u>	<u>(△28)</u>
<u>博士後期課程</u>	<u>(△8)</u>

※令和3年4月学生募集停止

工学府

材料工学専攻	
修士課程	(43) (令和2年4月事前伺い)
博士後期課程	(10) (令和2年4月事前伺い)
応用化学専攻	
修士課程	(68) (令和2年4月事前伺い)
博士後期課程	(18) (令和2年4月事前伺い)
化学工学専攻	
修士課程	(30) (令和2年4月事前伺い)
博士後期課程	(8) (令和2年4月事前伺い)

令和3年4月名称変更予定

工学府

エネルギー量子工学専攻	
→量子物理工学専攻	
量子物理工学専攻	修士課程 [定員増] (2) (令和3年4月)

海洋システム工学専攻	
→船舶海洋工学専攻	
船舶海洋工学専攻	修士課程 [定員増] (4) (令和3年4月)

工学府

機械工学専攻	修士課程 [定員増]	(11) (令和3年4月)
水素エネルギーシステム専攻	修士課程 [定員増]	(5) (令和3年4月)
航空宇宙工学専攻	博士後期課程 [定員減]	(△2) (令和3年4月)

システム情報科学府

<u>情報学専攻 (廃止)</u>	
<u>修士課程</u>	<u>(△40)</u>
<u>博士後期課程</u>	<u>(△14)</u>

	<p>情報知能工学専攻（廃止）</p> <p>修士課程 (△45)</p> <p>博士後期課程 (△15)</p> <p>電気電子工学専攻（廃止）</p> <p>修士課程 (△55)</p> <p>博士後期課程 (△16)</p> <p>※令和3年4月学生募集停止</p> <p>システム情報科学府</p> <p>情報理工学専攻</p> <p>修士課程 (105) (令和2年7月事前伺い予定)</p> <p>博士後期課程 (29) (令和2年7月事前伺い予定)</p> <p>電気電子工学専攻</p> <p>修士課程 (65) (令和2年7月事前伺い予定)</p> <p>博士後期課程 (16) (令和2年7月事前伺い予定)</p> <p>総合理工学府</p> <p>量子プロセス理工学専攻（廃止）</p> <p>修士課程 (△37)</p> <p>博士後期課程 (△14)</p> <p>物質理工学専攻（廃止）</p> <p>修士課程 (△37)</p> <p>博士後期課程 (△14)</p> <p>先端エネルギー理工学専攻（廃止）</p> <p>修士課程 (△34)</p> <p>博士後期課程 (△12)</p> <p>環境エネルギー工学専攻（廃止）</p> <p>修士課程 (△26)</p> <p>博士後期課程 (△9)</p> <p>大気海洋環境システム学専攻（廃止）</p> <p>修士課程 (△30)</p> <p>博士後期課程 (△11)</p> <p>※令和3年4月学生募集停止</p> <p>総合理工学府</p> <p>総合理工学専攻</p> <p>修士課程 (172) (令和2年7月事前伺い予定)</p> <p>博士後期課程 (62) (令和2年7月事前伺い予定)</p>
--	---

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数
		講義	演習	実験・実習	計	
	(修士課程)					
	工学府土木工学専攻	45 科目	5 科目	23 科目	73 科目	30 単位
	(博士後期課程)					
	工学府土木工学専攻	1 科目	3 科目	16 科目	20 科目	10 単位

教員組織の概要	新設	学部等の名称	専任教員等					兼任教員等		
			教授	准教授	講師	助教	計			助手
			人	人	人	人	人			人
		工学府 (修士課程)								
		工学府土木工学専攻 (博士後期課程)	12 (13)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	22 (23)	0 (0)	52 (53)	
		工学府土木工学専攻	11 (13)	12 (12)	0 (0)	0 (0)	23 (25)	0 (0)	2 (2)	
		工学府 (修士課程)								
		工学府材料工学専攻 (博士後期課程)	7 (7)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	49 (50)	令和2年4月事前伺い
		工学府材料工学専攻	7 (7)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	0 (0)	令和2年4月事前伺い
		工学府 (修士課程)								
		工学府応用化学専攻 (博士後期課程)	14 (16)	18 (18)	0 (0)	0 (0)	32 (34)	0 (0)	40 (41)	令和2年4月事前伺い
		工学府応用化学専攻	14 (16)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	18 (20)	0 (0)	4 (4)	令和2年4月事前伺い

既 設 分	工学府 (修士課程)								令和2年4月事前伺い
	工学府化学工学専攻 (博士後期課程)	7 (8)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	12 (13)	0 (0)	37 (40)	令和2年4月事前伺い
	工学府化学工学専攻 (修士課程)	7 (8)	1 (2)	0 (0)	0 (0)	8 (10)	0 (0)	0 (0)	
	システム情報科学府 (修士課程)								令和2年7月事前伺い予定
	システム情報科学府情報理工学専攻 (博士後期課程)	20 (20)	24 (24)	0 (0)	0 (0)	44 (44)	0 (0)	53 (53)	令和2年7月事前伺い予定
	システム情報科学府情報理工学専攻 (修士課程)	18 (18)	21 (21)	0 (0)	0 (0)	39 (39)	0 (0)	10 (11)	
	システム情報科学府 (修士課程)								令和2年7月事前伺い予定
	システム情報科学府電気電子工学専攻 (博士後期課程)	16 (17)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	26 (27)	0 (0)	61 (61)	令和2年7月事前伺い予定
	システム情報科学府電気電子工学専攻 (修士課程)	15 (16)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	20 (21)	0 (0)	2 (3)	
	総合理工学府 (修士課程)								令和2年7月事前伺い予定
	総合理工学専攻 (博士後期課程)	47 (47)	44 (44)	0 (0)	24 (24)	115 (115)	0 (0)	0 (0)	令和2年7月事前伺い予定
	総合理工学専攻 (修士課程)	46 (46)	43 (43)	0 (0)	0 (0)	89 (89)	0 (0)	0 (0)	
	計	241 (252)	207 (208)	0 (0)	24 (24)	472 (484)	0 (0)	- (-)	
	人文科学府								
	人文基礎専攻 修士課程	7 (7)	8 (8)	2 (2)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	11 (11)	
	人文基礎専攻 博士後期課程	7 (7)	8 (8)	2 (2)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	0 (0)	
	歴史空間論専攻 修士課程	7 (7)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	21 (21)	
	歴史空間論専攻 博士後期課程	8 (8)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	0 (0)	
	言語・文学専攻 修士課程	10 (10)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	19 (19)	
	言語・文学専攻 博士後期課程	10 (10)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	0 (0)	
地球社会統合科学府									
地球社会統合科学専攻 修士課程	28 (28)	31 (31)	4 (4)	3 (3)	66 (66)	0 (0)	8 (8)		
地球社会統合科学専攻 博士後期課程	29 (29)	32 (32)	4 (4)	0 (0)	65 (65)	0 (0)	5 (5)		
人間環境学府									
都市共生デザイン専攻 修士課程	4 (4)	4 (4)	0 (0)	3 (3)	11 (11)	0 (0)	12 (12)		
都市共生デザイン専攻 博士後期課程	5 (5)	4 (4)	0 (0)	3 (3)	12 (12)	0 (0)	1 (1)		
人間共生システム専攻 修士課程	4 (4)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	6 (6)		
人間共生システム専攻 博士後期課程	7 (7)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	0 (0)		
行動システム専攻 修士課程	3 (3)	9 (9)	3 (3)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	3 (3)		
行動システム専攻 博士後期課程	5 (5)	9 (9)	2 (2)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	1 (1)		
教育システム専攻 修士課程	11 (11)	9 (9)	2 (2)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	3 (3)		
教育システム専攻 博士後期課程	6 (6)	8 (8)	2 (2)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	0 (0)		
空間システム専攻 修士課程	4 (4)	8 (8)	0 (0)	3 (3)	15 (15)	0 (0)	10 (10)		
空間システム専攻 博士後期課程	4 (4)	8 (8)	0 (0)	3 (3)	15 (15)	0 (0)	1 (1)		

実践臨床心理学専攻 専門職学位課程	5 (5)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	4 (4)
法学府							
法政理論専攻 修士課程	24 (24)	20 (20)	0 (0)	0 (0)	44 (44)	0 (0)	26 (26)
法政理論専攻 博士後期課程	34 (34)	20 (20)	0 (0)	0 (0)	54 (54)	0 (0)	5 (5)
法務学府							
実務法学専攻 専門職学位課程	13 (13)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	60 (60)
経済学府							
経済工学専攻 修士課程	10 (10)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	4 (4)
経済工学専攻 博士後期課程	10 (10)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	4 (4)
経済システム専攻 修士課程	11 (11)	11 (11)	2 (2)	0 (0)	24 (24)	0 (0)	3 (3)
経済システム専攻 博士後期課程	11 (11)	11 (11)	2 (2)	0 (0)	24 (24)	0 (0)	3 (3)
産業マネジメント専攻 専門職学位課程	6 (6)	5 (5)	1 (1)	2 (2)	14 (14)	0 (0)	9 (9)
理学府							
物理学専攻 修士課程	15 (15)	15 (15)	1 (1)	11 (11)	42 (42)	0 (0)	12 (12)
物理学専攻 博士後期課程	15 (15)	15 (15)	1 (1)	11 (11)	42 (42)	0 (0)	6 (6)
化学専攻 修士課程	16 (16)	17 (17)	3 (3)	13 (13)	49 (49)	0 (0)	12 (12)
化学専攻 博士後期課程	16 (16)	17 (17)	3 (3)	13 (13)	49 (49)	0 (0)	5 (5)
地球惑星科学専攻 修士課程	10 (10)	19 (19)	0 (0)	6 (6)	35 (35)	0 (0)	5 (5)
地球惑星科学専攻 博士後期課程	10 (10)	19 (19)	0 (0)	6 (6)	35 (35)	0 (0)	1 (1)
数理学府							
数理学専攻 修士課程	31 (31)	23 (23)	0 (0)	13 (13)	67 (67)	0 (0)	14 (14)
数理学専攻 博士後期課程	31 (31)	23 (23)	0 (0)	13 (13)	67 (67)	0 (0)	0 (0)
システム生命科学府							
システム生命科学専攻 博士課程	28 (28)	23 (23)	4 (4)	25 (25)	80 (80)	0 (0)	2 (2)
医学系学府							
医学専攻 博士課程	46 (46)	34 (34)	9 (9)	14 (14)	103 (103)	0 (0)	7 (7)
医科学専攻 修士課程	45 (45)	38 (38)	9 (9)	13 (13)	105 (105)	0 (0)	2 (2)
保健学専攻 修士課程	14 (14)	6 (6)	6 (6)	6 (6)	32 (32)	0 (0)	43 (43)
保健学専攻 博士後期課程	14 (14)	7 (7)	1 (1)	2 (2)	24 (24)	0 (0)	0 (0)
医療経営・管理学専攻 専門職学位課程	9 (9)	2 (2)	2 (2)	3 (3)	16 (16)	0 (0)	5 (5)
歯学府							
歯学専攻 博士課程	19 (19)	16 (16)	15 (15)	44 (44)	94 (94)	0 (0)	31 (31)
薬学府							
創薬科学専攻 修士課程	16 (16)	12 (12)	2 (2)	1 (1)	31 (31)	0 (0)	24 (24)
創薬科学専攻 博士後期課程	5 (5)	2 (2)	1 (1)	5 (5)	13 (13)	0 (0)	0 (0)
臨床薬学専攻 博士課程	11 (11)	10 (10)	1 (1)	5 (5)	27 (27)	0 (0)	0 (0)
工学府							
海洋システム工学専攻 修士課程	8 (8)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	15 (15)
海洋システム工学専攻 博士後期課程	8 (8)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	14 (14)

地球資源システム工学専攻 修士課程	4 (4)	5 (5)	0 (0)	6 (6)	15 (15)	0 (0)	17 (17)
地球資源システム工学専攻 博士後期課程	7 (7)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	14 (14)
共同資源工学専攻 修士課程	3 (3)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	16 (16)
エネルギー量子工学専攻 修士課程	8 (8)	8 (8)	0 (0)	9 (9)	25 (25)	0 (0)	24 (24)
エネルギー量子工学専攻 博士後期課程	7 (7)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	16 (16)
機械工学専攻 修士課程	21 (21)	14 (14)	0 (0)	16 (16)	51 (51)	0 (0)	22 (22)
機械工学専攻 博士後期課程	19 (19)	14 (14)	0 (0)	16 (16)	49 (49)	0 (0)	14 (14)
水素エネルギーシステム専攻 修士課程	9 (9)	7 (7)	0 (0)	5 (5)	21 (21)	0 (0)	27 (27)
水素エネルギーシステム専攻 博士後期課程	9 (9)	7 (7)	0 (0)	5 (5)	21 (21)	0 (0)	15 (15)
航空宇宙工学専攻 修士課程	9 (9)	7 (7)	0 (0)	5 (5)	21 (21)	0 (0)	23 (23)
航空宇宙工学専攻 博士後期課程	9 (9)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	14 (14)
芸術工学府							
芸術工学専攻 修士課程	18 (18)	31 (31)	2 (2)	16 (16)	67 (67)	0 (0)	11 (11)
芸術工学専攻 博士後期課程	18 (18)	30 (30)	2 (2)	10 (10)	60 (60)	0 (0)	1 (1)
デザインストラテジー専攻 修士課程	3 (3)	10 (10)	1 (1)	2 (2)	16 (16)	0 (0)	17 (17)
デザインストラテジー専攻 博士後期課程	4 (4)	10 (10)	1 (1)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	3 (3)
生物資源環境科学府							
資源生物科学専攻 修士課程	17 (17)	25 (25)	0 (0)	17 (17)	59 (59)	0 (0)	0 (0)
資源生物科学専攻 博士後期課程	17 (17)	26 (26)	0 (0)	17 (17)	60 (60)	0 (0)	0 (0)
環境農学専攻 修士課程	16 (16)	21 (21)	0 (0)	15 (15)	52 (52)	0 (0)	0 (0)
環境農学専攻 博士後期課程	16 (16)	21 (21)	0 (0)	15 (15)	52 (52)	0 (0)	0 (0)
農業資源経済学専攻 修士課程	5 (5)	4 (4)	0 (0)	3 (3)	12 (12)	0 (0)	0 (0)
農業資源経済学専攻 博士後期課程	5 (5)	4 (4)	0 (0)	4 (4)	13 (13)	0 (0)	0 (0)
生命機能科学専攻 修士課程	20 (20)	14 (14)	0 (0)	15 (15)	49 (49)	0 (0)	0 (0)
生命機能科学専攻 博士後期課程	18 (18)	12 (12)	0 (0)	11 (11)	41 (41)	0 (0)	4 (4)
統合新領域学府							
ユーザー感性学専攻 修士課程	8 (8)	5 (5)	1 (1)	2 (2)	16 (16)	0 (0)	15 (15)
ユーザー感性学専攻 博士後期課程	5 (5)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)
オートモーティブサイエンス専攻 修士課程	11 (11)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	46 (46)
オートモーティブサイエンス専攻 博士後期課程	11 (11)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	4 (4)
ライブラリーサイエンス専攻 修士課程	5 (5)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	11 (11)
ライブラリーサイエンス専攻 博士後期課程	3 (3)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
基幹教育院	0 (0)	5 (5)	0 (0)	11 (11)	16 (16)	0 (0)	40 (40)
計	955 (955)	884 (884)	105 (105)	421 (421)	2365 (2365)	0 (0)	- (-)
合計	1196 (1207)	1091 (1092)	105 (105)	445 (445)	2837 (2849)	0 (0)	- (-)

教員以外の職員 の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		1,087 (1087)	0 (0)	1,087 (1087)					
	技 術 職 員		2,041 (2041)	0 (0)	2,041 (2041)					
	図 書 館 専 門 職 員		68 (68)	0 (0)	68 (68)					
	そ の 他 の 職 員		31 (31)	0 (0)	31 (31)					
	計		3,227 (3227)	0 (0)	3227 (3227)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	2,226,717㎡	0㎡	0㎡	2,226,717㎡					
	運 動 場 用 地	251,169㎡	0㎡	0㎡	251,169㎡					
	小 計	2,477,886㎡	0㎡	0㎡	2,477,886㎡					
	そ の 他	72,867,018㎡	0㎡	0㎡	72,867,018㎡					
	合 計	75,344,904㎡	0㎡	0㎡	75,344,904㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		638,753㎡ (638,753㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	638,753㎡ (638,753㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設					
	311室	347室	120室	4室 (補助職員6人)	1室 (補助職員3人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		工学府土木工学専攻		25 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点			
		4,195,007〔1,810,475〕 (4,195,007〔1,810,475〕)	77,353〔34,305〕 (77,353〔34,305〕)	63,337〔61,819〕 (63,337〔61,819〕)	10,708 (10,708)	73 (73)	7,434,882 (7,434,882)			
	計	4,195,007〔1,810,475〕 (4,195,007〔1,810,475〕)	77,353〔34,305〕 (77,353〔34,305〕)	63,337〔61,819〕 (63,337〔61,819〕)	10,708 (10,708)	73 (73)	7,434,882 (7,434,882)			
	図書館		面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数					
		46,365㎡	3,062 席	5,364,002 冊						
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
		11,139㎡	野球場1面		400mトラック1面					
経 費 積 立 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		教員1人当り研究費等	—	—	—	—	—	—	—	
		共同研究費等	—	—	—	—	—	—	—	
		図書購入費	—	—	—	—	—	—	—	
	設備購入費	—	—	—	—	—	—	—		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要		—								
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称九州大学 (Kyushu University)									
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超 過 率	開 設 年 度	所 在 地	
	【学部】 共創学部 共創学科	年	人	年次 人	人		倍		福岡県福岡市西区 元岡744番地	
	文学部 人文学科	4	105	-	315	学士(学術)	0.76	平成30年度	福岡県福岡市西区 元岡744番地	
	教育学部	4	151	-	613	学士(文学) 学士(学術)	1.04	平成12年度	福岡県福岡市西区 元岡744番地	
	4	46	-	188	学士(教育学) 学士(学術)	1.06	昭和24年度	福岡県福岡市西区 元岡744番地		
								平成30年度入学定員減 (△9人)		
								平成30年度入学定員減 (△4人)		

法学部	4	189	-	767	学士(法学) 学士(学術)	1.05	昭和24年度	福岡県福岡市西区 元岡744番地	平成30年度入学定員減 (△11人)
経済学部			3年次		学士(経済学)	1.04		福岡県福岡市西区	平成30年度入学定員減
経済・経営学科	4	141	10	593	学士(学術)	1.04	平成12年度	元岡744番地	(△9人)
経済工学科	4	85	3年次 10	365		1.05	昭和52年度		(△5人)
理学部					学士(理学)	1.05		福岡県福岡市西区	平成30年度入学定員減
物理学科	4	55		224	学士(学術)	1.05	昭和24年度	元岡744番地	(△4人)
化学科	4	62		253		1.03	昭和24年度		(△5人)
地球惑星科学科	4	45	3年次	183		1.07	平成2年度		(△3人)
数学科	4	50	5	214		1.06	昭和24年度		(△4人)
生物学科	4	46		187		1.08	昭和24年度		(△3人)
医学部			-		学士(医学)	1.05		福岡県福岡市東区	令和元年度入学定員減
医学科	6	110		665	学士(学術)	1.00	昭和24年度	馬出3丁目1番1号	(△1人)
生命科学科	4	12		48	学士(生命医科学)	1.16	平成19年度		
保健学科	4	134		539	学士(保健学)	1.03	平成14年度		平成30年度入学定員減 (△3人)
歯学部			-		学士(歯学)	0.99		福岡県福岡市東区	
歯学科	6	53		318			昭和42年度	馬出3丁目1番1号	
薬学部			-		学士(創薬科学)	1.02		福岡県福岡市東区	平成30年度入学定員減
創薬科学科	4	49		197	学士(学術)	1.04	平成18年度	馬出3丁目1番1号	(△1人)(創薬科学科)
臨床薬学科	6	30		180		1.01	平成18年度		
工学部			-		学士(工学)	1.01		福岡県福岡市西区	平成30年度入学定員減
建築学科	4	58		234	学士(学術)	1.01	昭和29年度	元岡744番地	(△2人)
電気情報工学科	4	153		617		1.02	平成8年度		(△5人)
物質科学工学科	4	163		657		1.02	平成9年度		(△5人)
地球環境工学科	4	145		585		1.03	平成10年度		(△5人)
エネルギー科学科	4	95		384		1.01	平成10年度		(△4人)
機械航空工学科	4	164		661		1.02	平成11年度		(△5人)
芸術工学部					学士(芸術工学)	1.02		福岡県福岡市南区	
芸術工学科	4	187		187	学士(学術)	1.02	令和2年度	塩原4丁目9番1号	
環境設計学科	4	-		-		-			令和2年より学生募集停止
工業設計学科	4	-		-		-			令和2年より学生募集停止
画像設計学科	4	-		-		-			令和2年より学生募集停止
音響設計学科	4	-		-		-			令和2年より学生募集停止
芸術情報設計学科	4	-		-		-			令和2年より学生募集停止
農学部			-		学士(農学)	1.05		福岡県福岡市西区	平成30年度入学定員減
生物資源環境学科	4	226		907	学士(学術)	1.05	平成10年度	元岡744番地	
【大学院】									
人文科学府			-		修士(文学)			福岡県福岡市西区	
人文基礎専攻					博士(文学)			元岡744番地	
修士課程	2	16		32		0.59	平成12年度		
博士後期課程	3	7		21		0.47			
歴史空間論専攻									
修士課程	2	20		40		0.47	平成12年度		
博士後期課程	3	9		27		0.69			
言語・文学専攻									
修士課程	2	20		40		0.90	平成12年度		
博士後期課程	3	9		27		0.84			
比較社会文化学府			-					福岡県福岡市西区	
日本社会文化専攻								元岡744番地	平成26年より学生募集停止
修士課程	2	-		-		-	平成12年度		
博士後期課程	3	-		-		-			
国際社会文化専攻									平成26年より学生募集停止
修士課程	2	-		-		-	平成12年度		
博士後期課程	3	-		-		-			

地球社会統合科学府 地球社会統合科学専攻 修士課程 博士後期課程	2 3	60 35	-	120 105	修士(学術) 修士(理学) 博士(学術) 博士(理学)	0.58 0.69	平成26年度	福岡県福岡市西区 元岡744番地
人間環境学府 都市共生デザイン専攻 修士課程 博士後期課程 人間共生システム専攻 修士課程 博士後期課程 行動システム専攻 修士課程 博士後期課程 教育システム専攻 修士課程 博士後期課程 空間システム専攻 修士課程 博士後期課程 実践臨床心理学専攻 専門職学位課程	2 3 2 3 2 3 2 3 2 3 2 3 2 3 2	20 5 11 9 17 10 19 9 28 7 30	-	40 15 22 27 34 30 38 27 56 21 60	修士(人間環境学) 修士(文学) 修士(教育学) 修士(心理学) 修士(工学) 博士(人間環境学) 博士(文学) 博士(教育学) 博士(心理学) 博士(工学)	1.30 0.53 0.67 0.96 0.97 1.06 0.36 0.51 1.65 0.47 1.00	平成12年度 平成12年度 平成12年度 平成12年度 平成17年度 平成12年度 平成17年度	福岡県福岡市西区 元岡744番地
法学府 法政理論専攻 修士課程 博士後期課程	2 3	72 17	-	134 51	修士(法学) 博士(法学)	0.41 0.27	平成22年度	福岡県福岡市西区 元岡744番地
法務学府 実務法学専攻 専門職学位課程	3	45	-	135	法務博士(専門職)	0.83	平成16年度	福岡県福岡市西区 元岡744番地
経済学府 経済工学専攻 修士課程 博士後期課程 経済システム専攻 修士課程 博士後期課程 産業マネジメント専攻 専門職学位課程	2 3 2 3 2 3	20 10 27 14 45	-	40 30 54 42 90	修士(経済学) 博士(経済学) 経営修士(専門職)	0.85 0.33 0.92 0.47 1.00	平成12年度 平成15年度 平成15年度	福岡県福岡市西区 元岡744番地
理学府 物理学専攻 修士課程 博士後期課程 化学専攻 修士課程 博士後期課程 地球惑星科学専攻 修士課程 博士後期課程	2 3 2 3 2 3	41 14 62 19 41 14	-	82 42 124 57 82 42	修士(理学) 博士(理学)	0.96 0.59 1.02 0.60 1.01 0.59	平成20年度 平成20年度 平成12年度	福岡県福岡市西区 元岡744番地
数理学府 数理学専攻 修士課程 博士後期課程	2 3	54 20	-	108 60	修士(数理学) 修士(技術数理学) 博士(数理学) 博士(機能数理学)	1.02 0.51	平成12年度	福岡県福岡市西区 元岡744番地

システム生命科学府 システム生命科学専攻 博士課程	5	54	-	270	修士(システム生命科学) 修士(理学) 修士(工学) 修士(情報科学) 博士(システム生命科学) 博士(理学) 博士(工学) 博士(情報科学)	1.41	平成15年度	福岡県福岡市西区 元岡744番地
医学系学府 医学専攻 博士課程	4	107	-	428	修士(医科学) 修士(看護学) 修士(保健学)	1.16	平成20年度	福岡県福岡市東区 馬出3丁目1番1号
医科学専攻 修士課程	2	20		40	博士(医学) 博士(看護学)	0.77	平成15年度	
保健学専攻 修士課程	2	27		54	博士(保健学) 医療経営・管理学修 士(専門職)	1.21	平成19年度	
博士後期課程	3	10		30		0.76	平成21年度	
臓器機能医学専攻 博士課程	4	-		-		-		平成18年より学生募集停止
医療経営・管理学専攻 専門職学位課程	2	20		40		0.95	平成13年度	
歯学府 歯学専攻 博士課程	4	43	-	172	博士(歯学) 博士(臨床歯学) 博士(学術)	0.81	平成12年度	福岡県福岡市東区 馬出3丁目1番1号
薬学府 創薬科学専攻 修士課程	2	55	-	110	修士(創薬科学) 博士(創薬科学)	0.82	平成22年度	福岡県福岡市東区 馬出3丁目1番1号
博士後期課程	3	12		36	博士(臨床薬学)	1.58	平成24年度	
臨床薬学専攻 博士課程	4	5		20		1.00	平成24年度	
工学府 物質創造工学専攻 修士課程	2	38	-	76	修士(工学) 博士(工学)	1.25	平成12年度	福岡県福岡市西区 元岡744番地
博士後期課程	3	10		30		1.60		
物質プロセス工学専攻 修士課程	2	30		60		1.13	平成12年度	
博士後期課程	3	9		27		0.77		
材料物性工学専攻 修士課程	2	33		66		0.93	平成12年度	
博士後期課程	3	7		21		1.18		
化学システム工学専攻 修士課程	2	35		70		1.28	平成12年度	
博士後期課程	3	10		30		0.96		
建設システム工学専攻 修士課程	2	24		48		1.35	平成12年度	
博士後期課程	3	8		24		0.95		
都市環境システム工学専攻 修士課程	2	28		56		1.33	平成12年度	
博士後期課程	3	8		24		1.03		
海洋システム工学専攻 修士課程	2	21		42		1.35	平成12年度	
博士後期課程	3	8		24		0.58		
地球資源システム工学専攻 修士課程	2	20		40		1.27	平成12年度	
博士後期課程	3	8		24		1.66		
共同資源工学専攻 修士課程	2	10		20		1.60	平成29年度	

エネルギー量子工学専攻						平成12年度		
修士課程	2	28		56	1.15			平成29年度入学定員減
博士後期課程	3	10		30	0.50			(△2人) (博士後期課程)
機械工学専攻						平成22年度		
修士課程	2	62		124	1.40			平成29年度入学定員減
博士後期課程	3	16		48	1.10			(△3人) (博士後期課程)
水素エネルギーシステム専攻						平成22年度		
修士課程	2	30		60	1.06			
博士後期課程	3	9		27	1.03			
航空宇宙工学専攻						平成12年度		
修士課程	2	30		60	1.33			
博士後期課程	3	12		36	0.49			
知能機械システム専攻								平成22年より学生募集停止
博士後期課程	3	-		-	-			
芸術工学府			-				福岡県福岡市南区	
芸術工学専攻						平成15年度	塩原4丁目9番1号	
修士課程	2	92		184	1.26			
博士後期課程	3	25		75	0.61			
デザインストラテジー専攻						平成18年度		
修士課程	2	28		56	1.13			
博士後期課程	3	5		15	1.00	平成20年度		
システム情報科学府			-				福岡県福岡市西区	
情報学専攻						平成21年度	元岡744番地	
修士課程	2	40		80	1.30			
博士後期課程	3	14		42	0.52			
情報知能工学専攻						平成21年度		
修士課程	2	45		90	1.49			
博士後期課程	3	15		45	0.53			
電気電子工学専攻						平成21年度		
修士課程	2	55		110	1.45			
博士後期課程	3	16		48	0.47			
総合理工学府			-				福岡県春日市春日	
量子プロセス理工学専攻						平成12年度	公園6丁目1番地	
修士課程	2	37		74	1.81			
博士後期課程	3	14		42	0.95			
物質理工学専攻						平成12年度		
修士課程	2	37		74	1.43			
博士後期課程	3	14		42	1.09			
先端エネルギー理工学専攻						平成12年度		
修士課程	2	34		68	1.20			
博士後期課程	3	12		36	0.52			
環境エネルギー工学専攻						平成12年度		
修士課程	2	26		52	1.30			
博士後期課程	3	9		27	1.21			
大気海洋環境システム学専攻						平成12年度		
修士課程	2	30		60	1.19			
博士後期課程	3	11		33	0.57			
生物資源環境科学府			-				福岡県福岡市西区	
資源生物科学専攻						平成22年度	元岡744番地	平成30年度入学定員増
修士課程	2	66		132	0.99			(16人)
博士後期課程	3	26		78	0.50			(7人)
環境農学専攻						平成22年度		平成30年度入学定員減
修士課程	2	66		132	0.92			(△9人)
博士後期課程	3	21		63	0.50			(△6人)
農業資源経済学専攻						平成22年度		
修士課程	2	13		26	0.72			
博士後期課程	3	5		15	0.93			

生命機能科学専攻	修士課程	2	99		198		0.90	平成22年度	平成30年度入学生定員減 (△9人)(修士課程) 平成30年度入学生定員増 (13人)(博士後期課程)
	博士後期課程	3	25		75		0.56		
生物産業創成専攻	修士後期課程	3	-		-		-	平成22年度	平成30年より学生募集停止
	修士後期課程	3	-		-		-		
統合新領域学府	ユーザー感性学専攻								福岡県福岡市西区 元岡744番地
	修士課程	2	30		60		0.63	平成21年度	
	博士後期課程	3	4		12		0.41	平成23年度	
	オートモーティブサイエンス専攻							平成21年度	
	修士課程	2	21		42		0.94		
	博士後期課程	3	7		21		0.42		
	ライブラリーサイエンス専攻								
	修士課程	2	10		20		0.65	平成23年度	
	博士後期課程	3	3		9		0.55	平成25年度	
附属施設の概要	<p>○附属病院 名 称：九州大学病院 目 的：患者の診療を通じて医学、歯学の教育と研究を行うこと。 所 在 地：福岡市東区馬出3-1-1 設置年月：昭和24年5月 規 模 等：土地面積313,745㎡ (病院地区：九州大学病院、医学部、歯学部、薬学部、生体防御医学研究所) 校舎等敷地88,043㎡(九州大学病院) 病床数1,275床、診療科37科</p> <p>○農場 名 称：九州大学農学部附属農場 目 的：農学に関する教育と研究を行うこと。 所 在 地：(農学部附属農場)福岡県糟屋郡粕屋町原町111 (高原農業実験実習場)大分県竹田市久住町久住字4045-4 設置年月：大正10年4月 規 模 等：土地面積396,670㎡(高原農業実験実習場を含む。)</p> <p>○演習林 名 称：九州大学農学部附属演習林 目 的：林学及び林産学に関する教育と研究を行うこと。 所 在 地：(福岡演習林)福岡県糟屋郡篠栗町津波黒394 (宮崎演習林)宮崎県東臼杵郡椎葉村大河内949 (北海道演習林)北海道足寄郡足寄町北五条1-85 (早良実習場)福岡県福岡市西区生の松原1-23-2 設置年月：大正11年5月 規 模 等：土地面積(全演習林の合計)71,425,335㎡</p> <p>○薬用植物園 名 称：九州大学薬学府附属薬用植物園 目 的：薬学に関する教育と研究を行うこと。 所 在 地：福岡県糟屋郡篠栗町津波黒394(九州大学農学部附属演習林内) 設置年月：昭和49年4月 規 模 等：土地面積26,800㎡</p>								

国立大学法人九州大学 設置申請等に関する組織の移行表

令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
九州大学				九州大学				
共創学部				共創学部				
共創学科	105	—	420	共創学科	105	—	420	
文学部				文学部				
人文学科	151	—	604	人文学科	151	—	604	
教育学部	46	—	184	教育学部	46	—	184	
法学部	189	—	756	法学部	189	—	756	
経済学部		3年次		経済学部		3年次		
経済・経営学科	141	10	584	経済・経営学科	141	10	584	
経済工学科	85	10	360	経済工学科	85	10	360	
理学部				理学部				
物理学科	55	—	220	物理学科	55	—	220	
化学科	62	—	248	化学科	62	—	248	
地球惑星科学科	45	3年次	180	地球惑星科学科	45	3年次	180	
数学科	50	5	210	数学科	50	5	210	
生物科学科	46	—	184	生物科学科	46	—	184	
医学部				医学部				
医学科	110	—	660	医学科	110	—	660	
生命科学科	12	—	48	生命科学科	12	—	48	
保健学科	134	—	536	保健学科	134	—	536	
歯学部				歯学部				
歯学科	53	—	318	歯学科	53	—	318	
薬学部				薬学部				
創薬科学科	49	—	196	創薬科学科	49	—	196	
臨床薬学科	30	—	180	臨床薬学科	30	—	180	
工学部				工学部				
建築学科	58	—	232	建築学科	0	—	0	令和3年4月学生募集停止
電気情報工学科	153	—	612	電気情報工学科	0	—	0	令和3年4月学生募集停止
物質科学工学科	163	—	652	物質科学工学科	0	—	0	令和3年4月学生募集停止
地球環境工学科	145	—	580	地球環境工学科	0	—	0	令和3年4月学生募集停止
エネルギー科学科	95	—	380	エネルギー科学科	0	—	0	令和3年4月学生募集停止
機械航空工学科	164	—	656	機械航空工学科	0	—	0	令和3年4月学生募集停止
				電気情報工学科	153	—	612	学科の設置(届出)
				材料工学科	53	—	212	学科の設置(届出)
				応用化学科	72	—	288	学科の設置(届出)
				化学工学科	38	—	152	学科の設置(届出)
				融合基礎工学科	57	20	268	学科の設置(届出)
				機械工学科	135	—	540	学科の設置(届出)
				航空宇宙工学科	29	—	116	学科の設置(届出)
				量子物理工学科	38	—	152	学科の設置(届出)
				船舶海洋工学科	34	—	136	学科の設置(届出)
				地球資源システム工学科	34	—	136	学科の設置(届出)
				土木工学科	77	—	308	学科の設置(届出)
				建築学科	58	—	232	学科の設置(届出)
芸術工学部				芸術工学部				
芸術工学科	187	—	748	芸術工学科	187	—	748	
農学部				農学部				
生物資源環境学科	226	—	904	生物資源環境学科	226	—	904	
計	2,554	25	10,652	計	2,554	45	10,692	

【大学院】

人文科学府

人文基礎専攻

修士課程 16 — 32

博士後期課程 7 — 21

歴史空間論専攻

修士課程 20 — 40

博士後期課程 9 — 27

言語・文学専攻

修士課程 20 — 40

博士後期課程 9 — 27

地球社会統合科学府

地球社会統合科学専攻

修士課程 60 — 120

博士後期課程 35 — 105

人間環境学府

都市共生デザイン専攻

修士課程 20 — 40

博士後期課程 5 — 15

人間共生システム専攻

修士課程 11 — 22

博士後期課程 9 — 27

行動システム専攻

修士課程 17 — 34

博士後期課程 10 — 30

教育システム専攻

修士課程 19 — 38

博士後期課程 9 — 27

空間システム専攻

修士課程 28 — 56

博士後期課程 7 — 21

実践臨床心理学専攻

専門職学位課程 30 — 60

法学府

法政理論専攻

修士課程 72 — 144

博士後期課程 17 — 51

法務学府

実務法学専攻

専門職学位課程 45 — 135

経済学府

経済工学専攻

修士課程 20 — 40

博士後期課程 10 — 30

経済システム専攻

修士課程 27 — 54

博士後期課程 14 — 42

産業マネジメント専攻

専門職学位課程 45 — 90

理学府

物理学専攻

修士課程 41 — 82

博士後期課程 14 — 42

化学専攻

修士課程 62 — 124

博士後期課程 19 — 57

地球惑星科学専攻

修士課程 41 — 82

博士後期課程 14 — 42

数理学府

数理学専攻

修士課程 54 — 108

博士後期課程 20 — 60

システム生命科学府

システム生命科学専攻

博士課程 54 — 270

医学系学府

医学専攻

博士課程 107 — 428

【大学院】

人文科学府

人文基礎専攻

修士課程 16 — 32

博士後期課程 7 — 21

歴史空間論専攻

修士課程 20 — 40

博士後期課程 9 — 27

言語・文学専攻

修士課程 20 — 40

博士後期課程 9 — 27

地球社会統合科学府

地球社会統合科学専攻

修士課程 60 — 120

博士後期課程 35 — 105

人間環境学府

都市共生デザイン専攻

修士課程 20 — 40

博士後期課程 5 — 15

人間共生システム専攻

修士課程 11 — 22

博士後期課程 9 — 27

行動システム専攻

修士課程 17 — 34

博士後期課程 10 — 30

教育システム専攻

修士課程 19 — 38

博士後期課程 9 — 27

空間システム専攻

修士課程 28 — 56

博士後期課程 7 — 21

実践臨床心理学専攻

専門職学位課程 30 — 60

法学府

法政理論専攻

修士課程 72 — 144

博士後期課程 17 — 51

法務学府

実務法学専攻

専門職学位課程 45 — 135

経済学府

経済工学専攻

修士課程 20 — 40

博士後期課程 10 — 30

経済システム専攻

修士課程 27 — 54

博士後期課程 14 — 42

産業マネジメント専攻

専門職学位課程 45 — 90

理学府

物理学専攻

修士課程 41 — 82

博士後期課程 14 — 42

化学専攻

修士課程 62 — 124

博士後期課程 19 — 57

地球惑星科学専攻

修士課程 41 — 82

博士後期課程 14 — 42

数理学府

数理学専攻

修士課程 54 — 108

博士後期課程 20 — 60

システム生命科学府

システム生命科学専攻

博士課程 54 — 270

医学系学府

医学専攻

博士課程 107 — 428

医科学専攻				医科学専攻				
修士課程	20	—	40	修士課程	20	—	40	
保健学専攻				保健学専攻				
修士課程	27	—	54	修士課程	27	—	54	
博士後期課程	10	—	30	博士後期課程	10	—	30	
医療経営・管理学専攻				医療経営・管理学専攻				
専門職学位課程	20	—	40	専門職学位課程	20	—	40	
歯学府				歯学府				
歯学専攻				歯学専攻				
博士課程	43	—	172	博士課程	43	—	172	
薬学府				薬学府				
創薬科学専攻				創薬科学専攻				
修士課程	55	—	110	修士課程	55	—	110	
博士後期課程	12	—	36	博士後期課程	12	—	36	
臨床薬学専攻				臨床薬学専攻				
博士課程	5	—	20	博士課程	5	—	20	
工学府				工学府				
物質創造工学専攻								令和3年4月学生募集停止
修士課程	38	—	76		0	—	0	
博士後期課程	10	—	30		0	—	0	
物質プロセス工学専攻								令和3年4月学生募集停止
修士課程	30	—	60		0	—	0	
博士後期課程	9	—	27		0	—	0	
材料物性工学専攻								令和3年4月学生募集停止
修士課程	33	—	66		0	—	0	
博士後期課程	7	—	21		0	—	0	
化学システム工学専攻								令和3年4月学生募集停止
修士課程	35	—	70		0	—	0	
博士後期課程	10	—	30		0	—	0	
				材料工学専攻				専攻の設置(届出)
				修士課程	43	—	86	
				博士後期課程	10	—	30	
				応用化学専攻				専攻の設置(届出)
				修士課程	68	—	136	
				博士後期課程	18	—	54	
				化学工学専攻				専攻の設置(届出)
				修士課程	30	—	60	
				博士後期課程	8	—	24	
								令和3年4月学生募集停止
建設システム工学専攻								令和3年4月学生募集停止
修士課程	24	—	48		0	—	0	
博士後期課程	8	—	24		0	—	0	
都市環境システム工学専攻								令和3年4月学生募集停止
修士課程	28	—	56		0	—	0	
博士後期課程	8	—	24		0	—	0	
				土木工学専攻				専攻の設置(届出)
				修士課程	52	—	104	
				博士後期課程	16	—	48	
				船舶海洋工学専攻				名称変更
				修士課程	25	—	50	定員変更(4)
				博士後期課程	8	—	24	
				地球資源システム工学専攻				
				修士課程	20	—	40	
				博士後期課程	8	—	24	
				共同資源工学専攻				
				修士課程	10	—	20	
				量子物理学専攻				名称変更
				修士課程	30	—	60	定員変更(2)
				博士後期課程	10	—	30	
				機械工学専攻				
				修士課程	73	—	146	定員変更(11)
				博士後期課程	16	—	48	
				水素エネルギーシステム専攻				
				修士課程	35	—	70	定員変更(5)
				博士後期課程	9	—	27	
				航空宇宙工学専攻				
				修士課程	30	—	60	
				博士後期課程	10	—	30	定員変更(△2)
芸術工学府				芸術工学府				
芸術工学専攻				芸術工学専攻				
修士課程	92	—	184	修士課程	92	—	184	
博士後期課程	25	—	75	博士後期課程	25	—	75	
デザインストラテジー専攻				デザインストラテジー専攻				
修士課程	28	—	56	修士課程	28	—	56	
博士後期課程	5	—	15	博士後期課程	5	—	15	

システム情報科学府			
情報学専攻			
修士課程	40	—	80
博士後期課程	14	—	42
情報知能工学専攻			
修士課程	45	—	90
博士後期課程	15	—	45
電気電子工学専攻			
修士課程	55	—	110
博士後期課程	16	—	48
総合理工学府			
量子プロセス理工学専攻			
修士課程	37	—	74
博士後期課程	14	—	42
物質理工学専攻			
修士課程	37	—	74
博士後期課程	14	—	42
先端エネルギー理工学専攻			
修士課程	34	—	68
博士後期課程	12	—	36
環境エネルギー工学専攻			
修士課程	26	—	52
博士後期課程	9	—	27
大気海洋環境システム学専攻			
修士課程	30	—	60
博士後期課程	11	—	33
生物資源環境科学府			
資源生物学専攻			
修士課程	66	—	132
博士後期課程	26	—	78
環境農学専攻			
修士課程	66	—	132
博士後期課程	21	—	63
農業資源経済学専攻			
修士課程	13	—	26
博士後期課程	5	—	15
生命機能科学専攻			
修士課程	99	—	198
博士後期課程	25	—	75
統合新領域学府			
ユーザー感性学専攻			
修士課程	30	—	60
博士後期課程	4	—	12
オートモーティブサイエンス専攻			
修士課程	21	—	42
博士後期課程	7	—	21
ライブラリーサイエンス専攻			
修士課程	10	—	20
博士後期課程	3	—	9
計	2,668	—	6,424

システム情報科学府			
			令和3年4月学生募集停止
	0	—	0
	0	—	0
			令和3年4月学生募集停止
	0	—	0
	0	—	0
			令和3年4月学生募集停止
	0	—	0
	0	—	0
情報理工学専攻			専攻の設置(届出)
修士課程	105	—	210
博士後期課程	29	—	87
電気電子工学専攻			専攻の設置(届出)
修士課程	65	—	130
博士後期課程	16	—	48
総合理工学府			
			令和3年4月学生募集停止
	0	—	0
	0	—	0
			令和3年4月学生募集停止
	0	—	0
	0	—	0
			令和3年4月学生募集停止
	0	—	0
	0	—	0
			令和3年4月学生募集停止
	0	—	0
	0	—	0
			令和3年4月学生募集停止
	0	—	0
	0	—	0
総合理工学専攻			専攻の設置(届出)
修士課程	172	—	344
博士後期課程	62	—	186
生物資源環境科学府			
資源生物学専攻			
修士課程	66	—	132
博士後期課程	26	—	78
環境農学専攻			
修士課程	66	—	132
博士後期課程	21	—	63
農業資源経済学専攻			
修士課程	13	—	26
博士後期課程	5	—	15
生命機能科学専攻			
修士課程	99	—	198
博士後期課程	25	—	75
統合新領域学府			
ユーザー感性学専攻			
修士課程	30	—	60
博士後期課程	4	—	12
オートモーティブサイエンス専攻			
修士課程	21	—	42
博士後期課程	7	—	21
ライブラリーサイエンス専攻			
修士課程	10	—	20
博士後期課程	3	—	9
計	2,733	—	6,554

教育課程等の概要															
(工学府 土木工学専攻 修士課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
高等専門科目	実践データ解析学 *	1前①		2		○				1					オムニバス
	野外調査法 *	1前①		2			○			2					
	研究計画法 *	1前①		2		○			12						
	数値解析学 *	1前①		2		○				1					
	空間情報学 *	1前①		2			○		1						
	地震工学特論 *	2前①～②		2		○			1						
	都市工学・経済学 *	2前①		2		○			1						
小計(7科目)		—	0	14	0	—	—	12	3	0	0	0			
先端科目	構造解析学特論 *	2前①～②		2		○			1						隔年
	免震制振工学 *	2後③～④		2		○				1					
	コンクリート工学特論 *	1前①～②		2		○			1	1					
	鋼構造特論 *	1後③～④		2		○				1					
	地盤材料力学 *	2前①～②		2		○				1					
	建設基礎対策学 *	2後③～④		2		○			1						
	災害リスク学 *	1前①～②		2		○			1						
	地盤解析学 *	1後③～④		2		○			1						
	防災地盤学 *	1後③～④		2		○			1						兼1
	河川工学特論 *	2前②		2		○									兼1
	環境水理学 *	2後③～④		2		○			1						
	沿岸・海洋工学特論 *	1後③～④		2		○			1	1					
	都市総合交通計画 *	2前①～②		2		○									兼1
	実践景観デザイン論 *	1前①～②		2		○									兼1
	社会基盤財政論 *	1後③～④		2		○			1						
	廃棄物資源循環学 *	2後③～④		2		○			1						
	環境計画論 *	1前①～②		2		○				1					
	水質変換工学 *	2後③～④		2		○			1						
	国土開発・災害リスクマネジメント *	1後③～④		2		○			5	4					
	地下水環境システム論 *	1前①～②		2		○				1					
	応用生態工学 *	2後③～④		2		○				1					
	地盤環境システム工学 *	2前①～②		2		○			1						
小計(22科目)		—	0	44	0	—	—	12	9	0	0	0	兼4		
能力開発特別科目	課題解決セミナーA	1後③		2				○		4					共同
	課題解決セミナーB *	1後④		2				○		3					共同
	プレゼンテーション演習 *	1後③		2			○								兼1
	プレゼンテーションデザイン *	1後④		2			○			1					兼1
	合意形成論演習 *	1前①		2			○								兼1
	環境学実習 *	2前①～②		2				○		1					集中
	実践維持管理工学 *	1前①～②		2				○		1	1				
	産学連携研究 *	2通		2				○		10					兼4
	社会基盤工学特論第一 *	2後④		2				○		1	2				
	社会基盤工学特論第二 *	2後④		2				○		2	2				
	社会基盤工学特論第三 *	2後④		2				○		3	1				兼1
	社会基盤工学特論第四 *	2後④		2				○		1					
	社会基盤工学演習第一 *	2後④		2				○		1	2				
	社会基盤工学演習第二 *	2後④		2				○		2	2				
	社会基盤工学演習第三 *	2後④		2				○		3	1				兼1
	社会基盤工学演習第四 *	2後④		2				○		1					
	都市環境工学特論第一 *	2後④		2				○		2					兼1
	都市環境工学特論第二 *	2後④		2				○							兼1
	都市環境工学特論第三 *	2後④		2				○		1	1				兼1
	都市環境工学特論第四 *	2後④		2				○		1	2				
	都市環境工学特論第五 *	2後④		2				○		1	2				
	都市環境工学演習第一 *	2後④		2				○		2					兼1
	都市環境工学演習第二 *	2後④		2				○							兼1
都市環境工学演習第三 *	2後④		2				○		1	1				兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	都市環境工学演習第四 *	2後④		2				○	1	2						
	都市環境工学演習第五 *	2後④		2				○	1	2						
	小計 (26科目)	—	0	50	0	—			12	10	0	0	0	兼4		
異分野科目	材料工学A	1前①・2前①		1		○								兼1		
	材料工学B	1前①・2前①		1		○								兼1		
	応用化学A	1後③・④		1		○								兼7	オムニバス	
	応用化学B	2後③・④		1		○								兼8	オムニバス	
	化学工学A	1後③・④		1		○								兼6	オムニバス	
	化学工学B	2後③・④		1		○								兼5	オムニバス	
	機械工学A	1後③・④		1		○								兼1		
	機械工学B	1後③・④		1		○								兼1		
	水素エネルギーシステムA	1後③・④		1		○								兼1		
	水素エネルギーシステムB	1後③・④		1		○								兼1		
	航空宇宙工学A	1前①		1		○								兼4	オムニバス	
	航空宇宙工学B	1前②		1		○								兼5	オムニバス・共同	
	量子物理学A	1後③		1		○								兼1		
	量子物理学B	1後④		1		○								兼1		
	船舶海洋工学A	1後③		1		○								兼4	オムニバス	
	船舶海洋工学B	1後④		1		○								兼2	オムニバス	
	地球資源システム工学A	1後③		1		○								兼1		
	地球資源システム工学B	1後④		1		○								兼1		
	小計 (18科目)	—	0	18	0	—			0	0	0	0	0	兼49		
合計 (73科目)			—	0	126	0	—			13	10	0	0	0	兼53	
学位又は称号		修士 (工学)			学位又は学科の分野			工学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
<p>修士課程に2年以上在学し、以下の要件を満たす30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、修士課程に1年以上在学すれば足りるものとする。</p> <p>【履修方法】 以下の要件を満たす30単位以上を修得すること。 (a) 高等専門科目 (6単位修得) (b) 先端科目 (6単位修得) (c) 能力開発特別科目 (6単位修得) (d) 異分野科目 (4単位修得)</p> <p>なお、4単位を上限として、大学院基幹教育科目及び他学府が開講する科目を異分野科目の単位として認定する。</p> <p>【備考】 記載する科目のうち、授業科目の名称末尾に「*」を付した科目は、グローバルコース (英語による授業等により学位取得可能な教育課程) の開設科目として英語でも開講する。 なお、グローバルコースにおいては、異分野科目区分に属する科目は開講しない。</p>								1 学年の学期区分		4期						
								1 学期の授業期間		8週						
								1 時限の授業時間		90分						

学位又は称号	博士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
<p>博士後期課程に3年以上在学し、以下の要件を満たす10単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、博士後期課程に1年以上在学すれば足りるものとする。</p> <p>【履修方法】 以下の要件を満たす10単位以上を修得すること。</p> <p>(a) 講究科目（4単位以上修得） なお、講究科目の選択科目のうち、社会基盤工学コースにおいては、 「建設材料工学講究A」、「建設材料工学講究B」、 「建設設計工学講究A」、「建設設計工学講究B」、 「防災地盤工学講究A」、「防災地盤工学講究B」、 「環境地盤工学講究」から4単位を選択必修とし、 都市環境工学コースにおいては、 「都市システム計画学講究A」、「都市システム計画学講究B」、 「環境デザイン工学講究A」、「都市環境工学講究A」、 「都市環境工学講究B」、「環境システム工学講究A」、 「環境水理学講究」、「沿岸海洋工学講究」から4単位を選択必修とする。</p> <p>(b) 博士共通科目（2単位修得） ＜必修科目＞工学研究企画（2単位）</p> <p>なお、指導教員の指導により履修した他学府等の授業科目を関連授業科目として単位認定することができる。</p> <p>【備考】 記載する科目のうち、授業科目の名称末尾に「*」を付した科目は、グローバルコース（英語による授業等により学位取得可能な教育課程）の開設科目として英語でも開講する。</p>		1 学年の学期区分	4学期
		1 学期の授業期間	8週
		1 時限の授業時間	90分

教 育 課 程 等 の 概 要															
(工学部地球環境工学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
基幹 教育 科目	基幹教育セミナー	1前②	1					○			1				兼34
	小計(1科目)	—	1	0	0			—			1	0	0	0	兼34
課題 協 学 科 目	課題協学科目	1後③～④	2.5					○							兼12
	小計(1科目)	—	2.5	0	0			—			0	0	0	0	兼12
言 語 文 化 科 目	言語文化基礎科目 学術英語A・リセプション	1前①～②	1					○							兼10
	学術英語A・プロダクション	1前①～②	1					○							兼10
	学術英語A・CALL	1前①～②	1					○							兼1
	学術英語B・インテグレート	1後③～④	2					○							兼18
	学術英語B・CALL	1後③～④	1					○							兼1
	学術英語AB・再履修	1後③～④ ・2前①～②		1				○							兼1
	学術英語C・テーマベース	2前①・② ・後③・④		1					○						兼9
	学術英語C・スキルベース	2前①・② ・後③・④		1					○						兼8
	学術英語C・集中演習	2前①～②		2					○						兼9
	専門英語	2後③～④		1					○						兼3
	ドイツ語I	1前①～②		1					○						兼5
	ドイツ語II	1後③～④		1					○						兼5
	ドイツ語III	2前①～②		1					○						兼1
	ドイツ語プラクティクムI	1後③～④		1						○					兼2
	ドイツ語プラクティクムII	2前①～②		1						○					兼1
	フランス語I	1前①～②		1					○						兼2
	フランス語II	1後③～④		1					○						兼2
	フランス語III	2前①～②		1					○						兼1
	フランス語プラティクI	1後③～④		1						○					兼1
	フランス語プラティクII	2前①～②		1						○					兼1
	中国語I	1前①～②		1					○						兼4
中国語II	1後③～④		1					○						兼4	
中国語III	2前①～②		1					○						兼1	
中国語実践I	1後③～④		1						○					兼2	
中国語実践II	2前①～②		1						○					兼2	
ロシア語I	1前①～②		1					○						兼1	
ロシア語II	1後③～④		1					○						兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	ロシア語Ⅲ	2前①～②		1		○									兼1
	ロシア語フォーラム	1後③～④		1			○								兼1
	韓国語Ⅰ	1前①～②		1		○									兼2
	韓国語Ⅱ	1後③～④		1		○									兼2
	韓国語Ⅲ	2前①～②		1		○									兼2
	韓国語フォーラム	1後③～④		1			○								兼2
	スペイン語Ⅰ	1前①～②		1		○									兼2
	スペイン語Ⅱ	1後③～④		1		○									兼2
	スペイン語Ⅲ	2前①～②		1		○									兼2
	スペイン語フォーラム	1後③～④		1			○								兼2
	日本語Ⅰ	1前①		1		○									兼1
	日本語Ⅱ	1前②		1		○									兼1
	日本語Ⅲ	1後③		1		○									兼1
	日本語Ⅳ	1後④		1		○									兼1
	日本語Ⅴ	2前①～②		1		○									兼1
	日本語Ⅵ	2前①～②		1		○									兼1
	日本語Ⅶ	2前①～②		1		○									兼1
	小計 (44科目)	—	6	40	0	—			0	0	0	0	0		兼50
文系 ディ シ プ リ ン 科 目	哲学・思想入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼3
	先史学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼3
	歴史学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼5
	文学・言語学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼6
	芸術学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼3
	文化人類学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼1
	地理学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼4
	社会学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼3
	心理学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼6
	現代教育学入門	1前①・② ・後③・④		1		○									兼5
	教育基礎学入門	1前①・② ・後③・④		1		○									兼5
	法学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼3
	政治学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼1
	経済学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼1
	経済史入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼2
	The Law and Politics of International Society	1後③～④		2		○									兼1
	小計 (16科目)	—	0	30	0	—			0	0	0	0	0		兼47

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
理系 デザイン プリン科目	社会と数理科学	1前①・② ・後③・④		1		○									兼3
	微分積分学	1後③～④		1.5		○									兼3
	微分積分学・同演習A	1前①～②		1.5			○								兼4
	微分積分学・同演習B	1後③～④		1.5			○	○							兼4
	微分積分学・同演習I	1前①～②	1.5				○	○							兼3
	微分積分学・同演習II	1後③～④	1.5					○							兼3
	微分積分学・同演習III	2前①～②	1.5					○							兼3
	線形代数	1前①～②		1.5		○									兼3
	線形代数学・同演習A	1前①～②	1.5					○							兼7
	線形代数学・同演習B	1後③～④	1.5						○						兼7
	数学演習I A	1前①～②		1					○						兼2
	数学演習I B	1後③～④		1						○					兼2
	数学演習II	2前①～②		1						○					兼4
	数理統計学	2前①～② ・後③～④	1.5				○								兼8
	身の回りの物理学A	1前①・② ・後③・④		1			○								兼2
	身の回りの物理学B	1前①・② ・後③・④		1			○								兼3
	物理学概論A	1前①～②		1.5			○								兼4
	物理学概論A演習	1前①～②		1						○					兼2
	物理学概論B	1後③～④		1.5			○								兼4
	物理学概論B演習	1後③～④		1						○					兼2
	基幹物理学I A	1前①～②	1.5				○								兼27
	基幹物理学I A演習	1前①～②	1							○					兼19
	基幹物理学I B	1後③～④	1.5				○				4				兼23
	基幹物理学I B演習	1後③～④		1						○		1	3		兼15
	力学演習	1後③～④		1						○					兼3
	物理学の進展	2前①～②		1.5			○								兼1
	基幹物理学II	2前①～②		1.5			○								兼4
	電気電子工学入門	2前①～②		2			○								兼1
	原子核物理学	2後③～④		2			○								兼1
	身の回りの化学	1前①・② ・後③・④		1			○								兼2
	基礎化学	1前①～②・ 後③～④		1.5			○								兼12
	無機物質化学	1前①～②・ 後③～④		1.5			○								兼12
	有機物質化学	1前①～②・ 後③～④		1.5			○								兼5
	基礎化学結合論	1前①～②・ 後③～④		1.5			○								兼8
	基礎化学熱力学	1後③～④		1.5			○								兼8
	現代化学	2前①～②		1.5			○								兼1
	基礎生物有機化学	2前①～②		1.5			○								兼1
	基礎生化学	2前①～②		1.5			○								兼1
	機器分析学	2後③～④		2			○								兼1
	生命の科学A	1前①・② ・後③・④		1			○								兼7
生命の科学B	1前①・② ・後③・④		1			○								兼6	
基礎生物学概要	1前①～② ・後③～④		1.5			○				1				兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	細胞生物学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼10
	集団生物学	2前①～②		1.5		○									兼6
	分子生物学	2前①～②		1.5		○									兼6
	生態系の科学	2前①～②		1.5		○									兼1
	地球と宇宙の科学	1前①・② ・後③・④		1		○									兼2
	地球科学	1前①・後③		1		○									兼2
	最先端地球科学	2前①～②		1		○									兼2
	宇宙科学概論	2前①～②		1.5		○									兼1
	デザイン思考	1前①・② ・後③・④		1		○									兼1
	図形科学	1前①・②	1.5			○			1	3					兼7
	空間表現実習 I	1後③～④		2			○								兼7
	空間表現実習 II	2前①～②		2			○								兼3
	世界建築史	2前①・②		2		○									兼1
	日本建築史	2前①・②		2		○									兼1
	近・現代建築史	2後③・④		2		○									兼1
	デザイン史	2後③・④		2		○									兼1
	情報科学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼11
	プログラミング演習	1前①～② ・後③～④	1				○			1		3			兼22
	コンピュータープログラミング入門	2後③・④		1		○									兼1
	自然科学総合実験（基礎）	1前①・後③	1					○				1			兼25
	自然科学総合実験（発展）	1前②・後④	1					○				1			兼25
	小計（63科目）	—	16	72	0	—	—	—	1	9	0	8	0	兼229	
サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1				○								兼13
	小計（1科目）	—	1	0	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼13	
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	1前①～②	1				○								兼20
	身体運動科学実習 I	1後③～④		1				○							兼17
	身体運動科学実習 II	2前①～②		1				○							兼7

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	身体運動科学実習Ⅲ	2後③～④		1				○							兼3	
	身体運動科学実習Ⅳ	2後③～④		1				○							兼3	
	健康・スポーツ科学講義ⅠA	1後③		1		○									兼1	
	健康・スポーツ科学講義ⅠB	1後④		1		○									兼1	
	健康・スポーツ科学講義Ⅱ	2前①～②		2		○									兼1	
	小計(8科目)	—	1	8	0	—			0	0	0	0	0	兼22		
総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ	1前①		1		○									兼1	
	アカデミック・フロンティアⅡ	1前②		1		○									兼1	
	大学とは何かⅠ	1前①		1		○									兼1	
	大学とは何かⅡ	1前②		1		○									兼1	
	九州大学の歴史Ⅰ	1後③		1		○									兼1	
	九州大学の歴史Ⅱ	1後④		1		○									兼1	
	女性学・男性学Ⅰ	1前①		1		○									兼1	
	女性学・男性学Ⅱ	1前②		1		○									兼1	
	日本事情	1前①		2		○									兼1	
	社会連携活動論：ボランティア	1前②		1		○									兼1	
	社会連携活動論：インターンシップ	1前①		1		○									兼1	
	Law in Everyday Life A	1後③		1		○									兼1	
	Law in Everyday Life B	1後④		1		○									兼1	
	バリアフリー支援入門	1前①		1		○									兼1	
	ユニバーサルデザイン研究	1後③		1		○									兼1	
	アクセシビリティ入門	1前②		1		○									兼1	
	アクセシビリティ支援入門	1後④		1		○									兼1	集中
	アクセシビリティ基礎	1後③・④		1		○									兼1	集中
	人と人をつなぐ技法	1後③		1		○									兼1	
	コミュニケーション入門	1前②		1		○									兼1	
	体験してわかる自然科学	1後③・④		1		○									兼1	
	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	1後③		1		○									兼1	
	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	1後④		1		○									兼1	
	アジア埋蔵文化財学A	1前①		1		○									兼1	
	アジア埋蔵文化財学B	1前②		1		○									兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	1後③		1		○									兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	1後④		1		○									兼1	
	グローバル社会を生きるⅠ	1前①・②		1		○									兼1	
	グローバル社会を生きるⅡ	1前①・②		1		○									兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅰ	1後③		1		○									兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅱ	1後④		1		○									兼1	
	フィールドに学ぶA	1後③		1				○							兼1	
	フィールドに学ぶB	1後④		1				○							兼1	
	教育テスト論	1後③～④		2		○									兼1	
	現代企業分析	1前①・②		1		○									兼1	集中
	現代経済事情	1前①・②		1		○									兼1	集中
	外国語プレゼンテーション	1後③～④		1		○									兼1	集中
	水の科学	1後③		2		○									兼1	
	医療倫理学Ⅰ	1後③		1		○									兼1	
	医療倫理学Ⅱ	1後④		1		○									兼1	
	バイオエシックス入門	1前②		1		○									兼1	
	科学の進歩と女性科学者Ⅰ	1前①		1		○									兼1	
	科学の進歩と女性科学者Ⅱ	1前②		1		○									兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅰ	1前①		1		○									兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅱ	1前②		1		○									兼1	
	命のあり方・尊さと食の関連	1前①～②		2		○									兼1	集中

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	食肉加工の理論と実践	1後③～④		2		○									兼1	集中
	先進的植物生産システム概論Ⅰ	1後③		1		○									兼1	
	先進的植物生産システム概論Ⅱ	1後④		1		○									兼1	集中
	体験的農業生産学入門	1後③～④		1				○							兼1	
	農のための植物-環境系輸送現象論	1後③		1		○									兼1	
	農のための最適環境制御	1前①		1		○									兼1	
	食科学の新展開	1前①		1		○									兼1	
	作物生産とフロンティア研究	1後③		1		○									兼1	
	持続可能な農業生産・食料流通システム	1後③		1		○									兼1	
	農業と微生物	1後④		1		○									兼1	
	企業から見たサイバーセキュリティA	1前②		1		○									兼1	
	企業から見たサイバーセキュリティB	1後④		1		○									兼1	
	サイバーセキュリティ演習	1前①～②		1			○								兼2	集中
	セキュリティエンジニアリング演習A	1前①～②		1			○								兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習B	1前①～②		1			○								兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習C	1後③～④		1			○								兼1	集中
	分子の科学	1後③～④		2		○									兼1	集中
	「留学」考	1後③・④		1		○									兼1	集中
	Japan in Global Society	1後④		1		○									兼1	
	アイデア・ラボⅠ	1前②		2		○									兼1	
	アントレプレナーシップ入門	1前①・後③		2		○									兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編）	1前①		1		○									兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編）	1前②		1		○									兼1	
	伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編）	1後③		1		○									兼1	
	少人数セミナー	1前①・②・後③・④		1		○									兼1	
	小計（71科目）	—	0	79	0	—			0	0	0	0	0	0	兼44	
高年次基幹教育科目	科学の歴史A	2前①・②		1		○									兼1	
	科学の歴史B	2前①・②		1		○									兼1	
	科学の基礎（哲学的考察）	2後③・④		1		○									兼1	
	脳情報科学入門	3前①・②		1		○									兼1	
	認知心理学	2後③・④		1		○									兼1	
	Brain and Mind	2後③・④		1		○									兼1	
	機械学習と人工知能	2後③・④		1		○									兼1	
	現代社会Ⅰ	2前①～②		2		○									兼1	
	現代社会Ⅱ	2後③～④		2		○									兼1	
	現代社会Ⅲ	2後③～④		2		○									兼1	隔年
	現代社会Ⅳ	2後③～④		2		○									兼1	隔年
	現代史Ⅰ	2前①～②		2		○									兼1	
	現代史Ⅱ	2後③～④		2		○									兼1	
	現代史Ⅲ	2後③～④		2		○									兼1	隔年
	現代史Ⅳ	2後③～④		2		○									兼1	隔年
	EU論基礎—制度と経済—	2前①～②		2		○									兼1	
	技術と産業・企業	3前①・②		2		○									兼1	隔年
	グローバル化とアジア経済	3前①・②		2		○									兼1	隔年
	金融と経済	2後③～④		2		○									兼1	
	サイバー空間デザイン	2前①～②		2		○									兼1	
	芸術学概論	3前①・②		1		○									兼1	
	音楽・音響論	2後③～④		2		○									兼1	
デザインと観察	2前①～②		2		○									兼1		
環境問題と自然科学	2後③～④		2		○									兼1		
環境調和型社会の構築	2前①～②		2		○				1					兼1		
グリーンケミストリー	2後③～④		2		○									兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	自然災害と防災	2後③～④		2		○				1					兼1	隔年
	生態系の構造と機能Ⅰ	2後③・④		1		○									兼1	隔年
	生態系の構造と機能Ⅱ	2後③・④		1		○									兼1	
	男女共同参画	2後③・④		2		○									兼1	
	ボランティア活動Ⅰ	2通		1				○							兼1	
	ボランティア活動Ⅱ	2通		1				○							兼1	
	インターンシップⅠ	2通		1				○							兼1	
	インターンシップⅡ	2通		1				○							兼1	
	漢方医薬学	3前①・②		1		○									兼1	集中
	チーム医療演習	3前①・②		1			○								兼1	集中
	バイオインフォマティクス	3前①・②		2		○									兼1	集中
	臨床イメージング	2後③・④		1		○									兼1	
	社会と健康	3前①・②		2		○									兼1	
	国際保健と医療	2後③～④		2		○									兼1	
	アクセシビリティマネジメント研究	2前①～②		2		○									兼1	集中
	地球の進化と環境	2後③～④		2		○									兼1	
	生物多様性と人間文化A	2前①・②		1		○									兼1	
	生物多様性と人間文化B	2前①・②		1		○									兼1	
	遺伝子組換え生物の利用と制御	2後③～④		2		○									兼1	
	バイオテクノロジー詳論	2後③～④		2		○									兼1	隔年
	平和と安全の構築学	2後③・④		1		○									兼1	
	文化と社会の理論	2前①～②		2		○									兼1	
	東アジアと日本ーその歴史と現在ー	2前①～②		2		○									兼1	隔年
	法文化学入門	2前①～②		2		○									兼1	隔年
	法史学入門	2前①～②		2		○									兼1	隔年
	ローマ法史	2前①～②		2		○									兼1	
	アジア共同体入門	2後③～④		2		○									兼1	
	プレゼンテーション基礎	2前①・②		1			○								兼1	集中
	レトリック基礎	2前①・②		1			○	○							兼1	集中
	共創発想法	2後③・④		2			○	○							兼1	
	データマイニングと情報可視化	2後③・④		1		○		※							兼1	※演習
	技術と倫理	2後③・④		1		○									兼1	
	医療における倫理	2前①～②		2		○									兼1	
	研究と倫理	3前①・②		1		○									兼1	
	インフォームドコンセント	3前①・②		1		○									兼1	集中
	薬害	3前①・②		1		○									兼1	集中
	臨床倫理	3前①・②		1		○									兼1	集中
	アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎	2後③・④		1		○									兼1	
	アントレプレナーシップ・戦略論基礎	2前①・②		1		○									兼1	
	アントレプレナーシップ・組織論基礎	2前①・②		1		○									兼1	
	アントレプレナーシップ・マーケティング基礎	2後③・④		1		○									兼1	
	事業創造デザイン特論Ⅰ	2前①・②		1		○									兼1	
	事業創造デザイン特論Ⅱ	2前①・②		1		○									兼1	
	リスクマネジメント	2後③～④		2		○									兼1	
	九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうA	2前①・②		1		○									兼1	
	九大生よ、ビジネスとイノベーションを学ぼうB	2前①・②		1		○									兼1	
	社会統計学A	3前①・②		1				○							兼1	
	社会統計学B	3前①・②		1				○							兼1	
	社会調査法ⅠA	2前①・②		1				○							兼1	
	社会調査法ⅠB	2前①・②		1				○							兼1	
	社会調査法ⅡA	2後③・④		1				○							兼1	
	社会調査法ⅡB	2後③・④		1				○							兼1	
	教育学特論	2前①～② ・後③～④		2		○									兼2	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
	教育心理学特論 (教育・学校心理学)	2後③～④		2		○									兼1	
	日本国憲法	3前①・②		2		○									兼2	
	小計 (81科目)	—	0	120	0	—			1	1	0	0	0	兼57		
	小計 (286科目)	—	27.5	349	0	—			2	11	0	8	0	兼446		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻 教育 科目	地球環境工学入門Ⅰ	1前①～②	1			○			3						オムニバス オムニバス 兼1 兼1 兼1 兼4
	地球環境工学入門Ⅱ	1後③～④	1			○			3						
	常微分方程式	2後③～④	2			○									
	複素関数論	2後③～④	2			○									
	フーリエ解析と偏微分方程式	3前①～②	2			○									
	情報処理概論	3後③～④	2			○			1						
	地球環境工学卒業研究	4前①～② ・後③～④	6					○	18	22		2			
	小計(7科目)		16	0	0		—		18	22	0	2	0	兼7	
選択 科目	応用複素関数論	3前①～②		2		○									兼1
	電気工学基礎	2前①～② ・3前①～② ・4前①～② 2後③～④		2		○									兼1
	電子情報工学基礎	2後③～④ ・3後③～④ ・4後③～④		2		○									兼1
	機械工学大意第一	2前①～② ・3前①～② ・4前①～②		2		○									兼3
	流体力学第一	2前①・後③		2		○			1						
	固体力学	2前①・②		2		○									兼3
	確率統計	2前①		2		○									兼1
	構造力学Ⅰ	2後③		1		○			1						
	構造力学Ⅱ	2後④		1		○			1						
	水理学Ⅰ	2後③		1		○			1						
	水理学Ⅱ	2後④		1		○			1						
	地盤力学Ⅰ	2後③		1		○			1						兼1
	地盤力学Ⅱ	2後④		1		○			1						兼1
	環境システム学	2前②		2		○			1	1					
	構造力学Ⅲ	3前①		1		○				1					
	構造力学Ⅳ	3前①		1		○				1					
	水理学Ⅲ	3前①		1		○				1					
	水理学Ⅳ	3前①		1		○				1					
	地盤力学Ⅲ	3前①		1		○				1					
	地盤力学Ⅳ	3前①		1		○				1					
	土木材料学Ⅰ	2後④		1		○			1						
	土木材料学Ⅱ	2後④		1		○			1						
	環境基礎学Ⅰ	3後③		1		○			1						
	環境基礎学Ⅱ	3後③		1		○			1						
	計画数理Ⅰ	3前①		1		○				1					
	計画数理Ⅱ	3前①		1		○				1					
	社会基盤計画学Ⅰ	2後③		1		○			1						
	社会基盤計画学Ⅱ	2後④		1		○			1						
	流体力学基礎	2前①		2			○		1						
	基礎土木工学演習	2後③～④		2			○		3	1					
	土木工学総合演習	3後③～④		2			○			13					兼1
	土木地理学	2前②		2		○			2	1		1			
	土木実践教室1	2後③～④		2						13		9			兼2
土木実践教室2	3後③～④		2						13		9			兼2	
土木実践教室3	4前①～②		2						13		9			兼2	
構造解析学	3後④		2		○				1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	土木エンジニア史	2前①		2		○				2					
	河川工学 I	3後③		1		○				1					
	河川工学 II	3後③		1		○				1					
	上下水道および水資源工学 I	3後④		1		○				1					
	上下水道および水資源工学 II	3後④		1		○				1					
	まちづくり・地域づくり概論 I	2後③		1		○				2					
	まちづくり・地域づくり概論 II	2後④		1		○				2					
	コンクリート構造工学 I	3後③		1		○				1					
	コンクリート構造工学 II	3後③		1		○				1					
	海岸水理学 I	3後④		1		○				1					
	海岸水理学 II	3後④		1		○				1					
	応用地盤工学 I	3後③		1		○			1					兼1	
	応用地盤工学 II	3後③		1		○			1					兼1	
	環境保全と開発 I	4前①		1		○			1						
	環境保全と開発 II	4前①		1		○			1						
	交通計画学	4前①		2		○				1					
	鋼構造工学	3後④		2		○				1					
	地震工学	3後③		2		○			1	1					
	都市計画	3後④		2		○			1						
	水文学 I	3前①		1		○				3		1			
	水文学 II	3前①		1		○				3		1			
	測量学・実習	2前①～②		3		○		※	1					兼1	※実験・実習
	景観学	2前②		2		○				2					
	交通施設工学	4前②		2		○				1					
	合意形成論	3前①		2		○				3					
	維持管理工学	4前①		2		○			1	1					
	環境と防災 1	2後③		1		○				2					オムニバス・共同(一部)
	環境と防災 2	2後④		1		○				2					オムニバス・共同(一部)
	沿岸域管理工学	4前①		2		○				2					
	プロジェクト・ものづくり	3後③～④ ・4前①～②		2			○			6					共同
	プロジェクト・まちづくり	3後③～④ ・4前①～②		2			○			1		2			共同
	生態工学	2後③		2		○				1					
	土木と社会セミナー 1	2前①～②		1		○				2					オムニバス・共同(一部)
	土木と社会セミナー 2	2後③～④		1		○				2					オムニバス・共同(一部)
	土木と社会セミナー 3	4前①～②		1		○				2					オムニバス・共同(一部)
	力学 I	2後③～④		2		○				1					
	流体力学第二	2前①・後④		2		○			1						
	材料力学	2後③～④		4		○			1						
	船舶設計	2後③		2		○				1					
	自動制御工学	2後③		2		○			1						
	船舶海洋流体力学第一	3前①		2		○			1						
	船舶運動論	3前②		2		○			1						
	弾性力学第一	3前①～②		2		○			1						
	材料加工学	2前②・3前②		2		○			1						
	機能設計工学	3前①		2		○			1	1					
	システム設計工学	3後③		2		○			1						

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	船舶海洋製図第一	3前①～②		1		※		○		1					※講義
	運動制御工学	3後④		2		○			1						
	船舶海洋流体力学第二	3後③		2		○			1						
	船舶海洋構造力学	3後③		2		○			1						
	船舶海洋振動学第一	3後③		2		○			1						
	環境設計工学	3後④		2		○			1	1					
	材料強度学	3後③		2		○			1						
	船舶海洋製図第二	3後③～④		2		※		○		1					※講義
	海洋機器工学	2前②・4前②		2		○			1						
	船舶海洋振動学第二	3後④		2		○			1						
	海洋環境情報学	3前①		2		○				1					
	船用機関	4前①～②		2		○							兼1		
	技術者倫理	3後④		2		○			1						
	工業マネージメント	4前①		2		○				1					
	船舶海洋システム工学実験	4前①～②		1				○	4	1		2			共同
	計算工学演習第一	2後④		1			○	※	1						※実験・実習
	計算工学演習第二	4前①		1			○	○	6	3		2			
	構造解析演習	4前①		1			○	○	1						
	船舶海洋システム工学特別講義第一	4前②		1		○			1						
	船舶海洋システム工学特別講義第二	4後③		1		○			1						
	船舶海洋システム工学特別講義第三	4後④		1		○			1						
	海事統計学	2前①		2		○			1						
	工学基礎力学	3前①		2		○				1					
	船舶算法および同演習	2前①		1.5		○		※		1					※演習
	船舶復原性および同演習	2後④		1.5		○		※	1						※演習
	構造力学	3前①～②		4		○			1						
	地球システム学概論	2後④		2		○			1						
	地球環境のイメージング	2後④		2		○			1						
	地球熱学	2後④		2		○				1					
	資源流体力学	2後③		2		○				1					
	岩盤工学	2後③		2		○				1					
	資源処理工学	2後③		2		○				1			兼1		
	石油工学	3前②		2		○				1					
	環境地球科学	3後④		2		○			1						
	フィールド地球科学演習	2後③～④		1		※		○		1					※講義
	物理探査学	3前①		2		○				1					
	地熱工学	3前②		2		○				1					
	地球工学実験第一	3前①～②		1		※		○				3	兼1		※講義
	地球工学実験第二	3後③～④		1		※		○				3	兼1		※講義
	地下空洞設計法	3前①		2		○			1						
	環境修復工学	3前②		2		○				1					
	資源システム工学実験第一	3前①～②		1				○		2		1			
	資源システム工学実験第二	3後③～④		1				○		2		1			
	地層内物質移動工学	3前①		2		○							兼1		
	資源工学倫理及びマネージメントⅠ	2後③		1		○			1						
	資源工学倫理及びマネージメントⅡ	2後④		1		○			1						
	地球環境化学	2後④		2		○			1						
	地球システム工学実習	2後③～④		1				○	1	1		1	兼1		
	地球システム工学インターンシップ	3通		4				○	5	6		5	兼4		
	資源地球科学	3前①		2		○			1						
	環境地球物理学	3後③		2		○			1						
	地熱貯留層工学	3後③		2		○			1						
	地圏開発システム工学	3後③		2		○				1					
	資源微生物工学	3後③		2		○				1					
	エネルギー資源工学	2後③		2		○							兼1		
	工業爆薬学	3前①～②		2		○				1			兼1		
	新エネルギー工学	2後④		1		○							兼2		集中

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
	地熱発電工学	3前②		1		○			1						兼1	集中	
	石灰石資源	3前①		1		○			1						兼1		
	石油・天然ガス資源開発	3後③		1		○				1					兼1	集中	
	海外資源・資源経済学	3後③		1		○			1						兼1	集中	
	廃棄物資源循環工学	3後③		1		○									兼2	集中	
	石油開發生産工学	3後④		2		○				1							
	スクールオンザムーブ国際インターンシップ	3通		4				○	5	6		5			兼4		
	品質管理	3後③～④		2		○									兼1		
	機械工学大意第二	3前①～②		2		○									兼3		
	無機化学第三	3後③		2		○									兼1		
	金属材料大意	4前①～②		2		○									兼2		
	テクノロジー・マーケティング	2後③～④ ・3前②・後③ ③～④・4前②		2		○									兼1		
	小計 (151科目)	—		0	247	0	—	—	—	22	22	0	17	0	兼29		
	参考科目	課題集約演習	4前①～②			1		○		3							
		産業活動実習	3前①～②			1			○	3							
		国際イノベーション入門	2・3・4後③～④			4			○							兼2	
国際オープンマインド入門		2・3・4後③～④			4			○							兼2		
国際コラボレーション入門		2・3・4後③～④			4			○							兼2		
小計 (5科目)	—		0	0	14	—	—	—	3	0	0	0	0	兼2			
小計 (163科目)	—		16	247	14	—	—	—	22	22	0	17	0	兼33			
合計 (449科目)		—	43.5	596	14	—	—	—	22	22	0	17	0	兼479			

学位又は称号	学士(工学)	学位又は学科の分野	工学関係
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
基幹教育科目から48.5単位以上、専攻教育科目から85単位以上を修得し、133.5単位以上修得すること。 1. 基幹教育科目 48.5単位以上 (a) 基幹教育セミナー (1単位修得) <必修科目> 基幹教育セミナー (1単位) (b) 課題協学科目 (2.5単位修得) <必修科目> 課題協学科目 (2.5単位) (c) 言語文化科目 (12単位以上修得) <必修科目> 学術英語A・リセプション (1単位) 学術英語A・プロダクション (1単位) 学術英語B・インテグレート (2単位) 学術英語A・CALL (1単位) 学術英語B・CALL (1単位) (d) 文系ディシプリン科目 (4単位以上修得) (e) 理系ディシプリン科目 (21.5単位以上修得) <必修科目> 微分積分学・同演習 I (1.5単位) 微分積分学・同演習 II (1.5単位) 線形代数学・同演習 A (1.5単位) 線形代数学・同演習 B (1.5単位) 基幹物理学 I A (1.5単位) 基幹物理学 I A演習 (1単位) 基幹物理学 I B (1.5単位) 図形科学 (1.5単位) プログラミング演習 (1単位) 自然科学総合実験 (基礎) (1単位) 自然科学総合実験 (発展) (1単位) なお、理系ディシプリン科目のうち、基幹物理学 I B演習、無機物質化学、基礎生物学概要、地球と宇宙の科学、情報科学、数理統計学、基礎化学熱力学、細胞生物学、地球科学、最先端地球科学、空間表現実習 I から5.5単位を選択必修とする。 (f) サイバーセキュリティ科目 (1単位修得) <必修科目> サイバーセキュリティ基礎論 (1単位) (g) 健康・スポーツ科目 (1単位以上修得) <必修科目> 健康・スポーツ科学演習 (1単位) (h) 総合科目 (1.5単位以上修得) (i) 高年次基幹教育科目 (2単位以上修得) (j) その他 上記(a)～(i)に定める単位数とは別に、以下により、2単位以上を修得する。 ・1年次においては、言語文化科目、文系ディシプリン科目、理系ディシプリン科目、健康・スポーツ科目、総合科目の中から2単位以上を修得する。 ・2年次以降においては、上記の科目に加えて、高年次基幹教育科目から単位を修得できる。		1 学年の学期区分	4学期
		1 学期の授業期間	8週
		1 時限の授業時間	90分
2. 専攻教育科目 85単位以上 (a) 必修科目 (16単位修得) (b) 選択科目 (69単位以上修得)			

教育課程等の概要														
(工学府 建設システム工学専攻 修士課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専攻授業科目	先端科目	破壊管理工学特論		2		○			1					
		地盤環境システム工学	1前①	2		○			1					
		社会基盤財政論	2後③～④	2		○							兼1	集中
		実践景観デザイン論	2前①～②	2		○							兼1	
		数値構造解析学特論	1後③～④	2		○				1				
		廃棄物資源循環学	1後③～④	2		○							兼1	
		環境水理学	1後③～④	2		○							兼1	
		沿岸・海洋工学特論	2後③～④	2		○							兼2	
		システム適化特論	1後③～④	2		○			1					
		制御工学特論	1前①～②	2		○				1				
		船舶海洋振動学特論	1後③～④	2		○							兼1	
		船舶海洋計測工学	1後③～④	2		○							兼1	
		船舶海洋情報学	1前①～②	2		○							兼1	
		船舶用エンジン工学特論	1前①～②	2		○							兼1	
		荷重評価学	2前①～②	2		○							兼1	
		資源地質学第二	1後④	2		○							兼1	
		鉱物工学	2前①～②	2		○							兼1	集中
		地球情報学第二	1後④	2		○							兼1	
		地球情報学第三	2前①～②	2		○							兼1	集中
		地熱工学特論	2前①～②	2		○							兼1	集中
		地熱系モデリング	1後④	2		○							兼1	
		環境安全特論	2後③～④	2		○							兼1	
		資源生産システム学	1後③	2		○							兼1	
		岩盤工学特論第二	1後③	2		○							兼1	
		開発機械システム工学特論	2前①～②	2		○							兼1	集中
		資源処理・環境修復工学特論第二	1後④	2		○							兼1	
		資源処理・環境修復工学特論第三	2前①～②	2		○							兼1	集中
		石油貯留層工学	1後③	2		○							兼1	
		物質移動工学特論	2前①～②	2		○							兼1	
		地球システム工学特別講義第一	1前①～②	1		○							兼1	
		地球システム工学特別講義第二	1後③～④	1		○							兼1	
		地球システム工学特別講義第三	2前①～②	1		○							兼1	
		応用リスク解析学	1後③～④	2		○							兼1	
		地球資源システム工学基礎第一	2前①～②	2		○							兼1	
		地球資源システム工学基礎第二	1後③～④	2		○							兼1	
		国際プロジェクトマネジメント	2後③～④	2		○				1				集中
		免震制振工学	1後③～④	2		○					1			
		水質変換工学	1後③～④	2		○							兼1	
		コンクリート工学特論	2前①～②	2		○				1	1			
		構造解析学特論	1前①～②	2		○				1				隔年
	地盤解析学	2後③～④	2		○				1					
	建設基礎対策学	1後③～④	2		○				1					
	災害リスク学	2前①～②	2		○				1					
	防災地盤学	2後③～④	2		○				1			兼1		
	地盤材料力学	1前①～②	2		○					1				
	都市総合交通計画	1前①～②	2		○							兼1		
	鋼構造特論	2後③～④	2		○							兼1		
	河川工学特論	1前②	2		○							兼1		
	応用生態工学	1後③～④	2		○							兼1		
	環境計画論	2前①～②	2		○							兼1		
	地下水環境システム論	2前①～②	2		○							兼1		
	交通・輸送システム工学	1前①～②	2		○							兼1		
	国土開発・災害リスクマネジメント	1後③～④	2		○				3	2		兼4		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	船舶運動特論第二	1後③～④		2		○									兼1	
	船舶抵抗推進特論第二	1後③～④		2		○									兼1	
	船舶抵抗推進特論第三	2前①～②		2		○									兼1	
	船舶コンピュータ支援設計製図	1後③～④		2		○									兼1	
	小計 (57科目)	—	0	111	0	—			8	4	0	0	0		兼35	
高等専門科目	溶接設計第一	1前①～②		2		○			1							
	溶接設計第二	1後③～④		2		○			1							
	地震工学特論	1前①～②		2		○			1							
	空間情報学	1前①		2			○		1							
	連続体力学	1前①～②		2		○									兼1	
	応用数理学	1後③～④		2		○									兼1	
	海洋浮体工学特論	1前①～②		2		○									兼1	
	船舶基本設計特論	1前①～②		2		○									兼1	
	船舶海洋構造力学特論	1前①～②		2		○									兼1	
	海洋構造工学	1後③～④		2		○									兼1	
	資源地質学第一	1後③		2		○									兼1	
	鉱物工学実験第一	2前①～②		1				○							兼1	集中
	鉱物工学実験第二	2後③～④		1				○							兼1	集中
	地球情報学第一	1後③		2		○									兼1	
	地球情報学実験第一	1前①～②		1				○							兼1	集中
	地球情報学実験第二	1後③～④		1				○							兼1	集中
	地球熱学特論	1後③		2		○									兼1	
	地熱工学特論実験第一	2前①～②		1				○							兼1	集中
	地熱工学特論実験第二	2後③～④		1				○							兼1	集中
	資源開発工学特論	1前①		2		○									兼1	
	資源開発工学特論実験	2前①～②		1				○							兼1	集中
	資源生産システム工学実験	2後③～④		1				○							兼1	集中
	岩盤工学特論第一	1前①		2		○									兼1	
	岩盤工学特論実験第一	1前①～②		1				○							兼1	集中
	岩盤工学特論実験第二	1後③～④		1				○							兼1	集中
	資源処理・環境修復工学特論第一	1後③		2		○									兼1	
	資源処理・環境修復工学特論実験第一	1前①～②		1				○							兼1	集中
	資源処理・環境修復工学特論実験第二	1後③～④		1				○							兼1	集中
	エネルギー資源工学特論	1後③		2		○									兼1	
	エネルギー資源工学特論実験第一	1前①～②		1				○							兼1	集中
	エネルギー資源工学特論実験第二	1後③～④		1				○							兼1	集中
	研究計画法	1前①		2		○			6						兼6	オムニバス
	プレゼンテーションデザイン	1後④		2			○			1					兼1	
	合意形成論演習	1前①		2			○				1				兼1	
	数値解析学	1前①～②		2		○					1					
	野外調査法	1前①		2			○								兼2	
	プレゼンテーション演習	1後③		2			○								兼1	
	都市工学・経済学	1前①		2		○									兼1	隔年・集中
	艦装設計工学	1後③～④		2		○									兼1	
	船舶運動特論第一	1前①～②		2		○									兼1	
	船舶抵抗推進特論第一	1前①～②		2		○									兼1	
	船舶海洋流体力学特論	2前①～②		2		○									兼1	
	実践データ解析学	1前①		2		○									兼1	
	小計 (43科目)	—	0	72	0	—			7	2	0	0	0		兼29	
能力開発特別スクーリング科目	建設システム工学演習第一	2前①～②・後③～④		2			○		2							
	建設システム工学演習第二	2前①～②・後③～④		2			○		2							
	建設システム工学演習第三	2前①～②・後③～④		2			○		2							
	建設システム工学演習第四	2前①～②・後③～④		2			○		2							
	都市環境システム工学演習第一	2前①～②・後③～④		2			○								兼2	
	都市環境システム工学演習第二	2前①～②・後③～④		2			○								兼2	
	都市環境システム工学演習第三	2前①～②・後③～④		2			○								兼2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
	都市環境システム工学演習第四	2前①～②・後③～④		2				○								兼2	
	海洋システム工学演習第一	2前①～②・後③～④		2				○								兼2	
	海洋システム工学演習第二	2前①～②・後③～④		2				○								兼2	
	海洋システム工学演習第三	2前①～②・後③～④		2				○								兼2	
	地球資源システム工学演習第一	2前①～②・後③～④		2				○								兼2	
	地球資源システム工学演習第二	2前①～②・後③～④		2				○								兼2	
	地球資源システム工学演習第三	2前①～②・後③～④		2				○								兼2	
	地球工学国際連携特論	1前①～②		2				○		1							集中
	エネルギー資源工学国際連携特論	2前①～②・後③～④		2				○		1							集中
	地球環境工学研究企画	1後③～④		2				○		1							集中
	地球資源システム工学国際連携演習	1後③～④		2				○		1							
	小計 (18科目)	—		0	36	0			—	8	0	0	0	0		兼20	
広域専門科目	建設システム工学特論第一	2後③～④		2			○			2							
	建設システム工学特論第二	2後③～④		2			○			2							
	建設システム工学特論第三	2後③～④		2			○			2							
	建設システム工学特論第四	2後③～④		2			○			2							
	都市環境システム工学特論第一	2後③～④		2			○									兼2	
	都市環境システム工学特論第二	2後③～④		2			○									兼2	
	都市環境システム工学特論第三	2後③～④		2			○									兼2	
	都市環境システム工学特論第四	2後③～④		2			○									兼2	
	海洋システム工学特論第一	2後③～④		2			○									兼2	
	海洋システム工学特論第二	2後③～④		2			○									兼2	
	海洋システム工学特論第三	2後③～④		2			○									兼2	
	地球資源システム工学特論第一	2後③～④		2			○									兼2	
	地球資源システム工学特論第二	2後③～④		2			○									兼2	
	地球資源システム工学特論第三	2後③～④		2			○									兼2	
	課題解決セミナー第一	1後③		2					○		2					兼2	共同
	課題解決セミナー第二	1後④		2					○							兼3	共同
小計 (16科目)	—		0	32	0			—	8	2	0	0	0		兼20		
産学連携科目	実践維持管理工学	1前①～②		2				○	1	1							
	環境学実習	2前①～②		2				○								兼1	集中
	海洋システム工学産学連携演習第一	1前①～②・後③～④		1				○								兼1	
	海洋システム工学産学連携演習第二	1前①～②・後③～④		1				○								兼1	
小計 (4科目)	—		0	6	0			—	1	1	0	0	0		兼2		
共通科目	応用数学A	1・2前①～②		2			○									兼1	隔年
	応用数学B	1・2前①～②		2			○									兼1	隔年
	応用数学C	1・2前①～②		2			○									兼1	隔年
	応用数学D	1・2前①～②		2			○									兼1	隔年
	ルベグ積分	1・2前①～②		2			○									兼1	
	関数解析	1・2後③～④		2			○									兼1	
	国際イノベーション特論	1～2通		4			○			1							集中
	国際オープンマインド特論	1～2通		4			○			1							集中
	ものづくり科学：粉末冶金原論	1・2前①～②		1			○									兼1	集中
	ものづくり科学：粉末冶金先端加工技術	1・2前①～②		1			○									兼1	集中
	ものづくり科学：セラミックス概論	1・2前①～②		2			○									兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	ものづくり科学：セラミックス解析特論	1・2前①～ ②		2		○									兼1
	小計（12科目）	—	0	26	0	—		1	0	0	0	0	0	0	兼6
合計（150科目）		—	0	283	0	—		8	4	0	0	0	0	0	兼43
学位又は称号		修士（工学）		学位又は学科の分野			工学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
<p>修士課程に2年以上在学し、以下の要件を満たす30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、修士課程に1年以上在学すれば足りるものとする。</p> <p>【履修方法】 専攻授業科目について次の単位とその他の関連授業科目についての単位をあわせて30単位以上修得しなければならない。 ※本専攻修士課程で定められた授業科目を専攻授業科目といい、その他の授業科目で指導教員が指定する授業科目（交通科目を含む。）を関連授業科目という。 （1）先端科目6単位以上 （2）高等専門科目6単位以上 （3）能力開発特別スクーリング科目、広域専門科目及び産学連携科目2単位以上</p>							1学年の学期区分		4学期						
							1学期の授業期間		8週						
							1時限の授業時間		90分						

教 育 課 程 等 の 概 要															
(工学府 建設システム工学専攻 博士後期課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻授業科目	建設材料工学講究A	1～3通		4				○	1						兼1
	建設材料工学講究B	1～3通		4				○		1					
	建設設計工学講究A	1～3通		4				○	1						
	建設設計工学講究B	1～3通		4				○	1	1					
	防災地盤工学講究A	1～3通		4				○	2						
	防災地盤工学講究B	1～3通		4				○	1						
	環境地盤工学講究	1～3通		4				○	1						
	地球環境工学研究企画演習	1～3通		4				○	1						
	地球環境工学指導演習	1～3通		2				○	1						
	地球環境工学特別演習	1～3通		2				○	1						
	産学連携実習	1～3通		4				○	1						
小計（11科目）		—	0	40	0			—	8	2	0	0	0	兼1	
各専攻共通の授業科目	工学研究企画	1～3通	2					○	1						
	グローバルリサーチ特論	1～3通		1			○		1						
	国際コラボレーション特論	1～3通		4			○		1						
	異分野特論Ⅰ	1～3通		2			○		1						
	異分野特論Ⅱ	1～3通		2			○		1						
	キャリア・デザイン	1～3通		2				○	1						
	アントレプレナーシップ・セミナー	1～3通		2				○	1						
小計（7科目）		—	2	13	0			—	1	0	0	0	0		
合計（科目）		—	2	53	0			—	8	2	0	0	0	兼1	
学位又は称号		博士（工学）			学位又は学科の分野			工学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
博士後期課程に3年以上在学し、以下の要件を満たす10単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、博士後期課程に1年以上在学すれば足りるものとする。 【履修方法】 専攻授業科目について次の単位とその他の関連授業科目についての単位をあわせて10単位以上修得しなければならない。 本専攻博士後期課程で定められた授業科目を専攻授業科目と言い、その他の授業科目で指導教員が指定する授業科目（各専攻共通の授業科目を含む。）を関連授業科目という。 1. 専攻授業科目4単位以上 2. 工学研究企画2単位								1学年の学期区分		4学期					
								1学期の授業期間		8週					
								1時限の授業時間		90分					

教 育 課 程 等 の 概 要																
(工学府 都市環境システム工学専攻 修士課程)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
専攻 授業科目	先端科目	破壊管理工学特論		2		○								兼1	集中	
		地盤環境システム工学	1前①	2		○								兼1		
		社会基盤財政論	2後③～④	2		○			1							
		実践景観デザイン論	2前①～②	2		○										兼1
		数値構造解析学特論	1後③～④	2		○										兼1
		廃棄物資源循環学	1後③～④	2		○			1							兼1
		環境水理学	1後③～④	2		○										兼1
		沿岸・海洋工学特論	2後③～④	2		○										兼2
		システム適化特論	1後③～④	2		○										兼1
		制御工学特論	1前①～②	2		○										兼1
		船舶海洋振動学特論	1後③～④	2		○										兼1
		船舶海洋計測工学	1後③～④	2		○										兼1
		船舶海洋情報学	1前①～②	2		○										兼1
		船舶用エンジン工学特論	1前①～②	2		○										兼1
		荷重評価学	2前①～②	2		○										兼1
		資源地質学第二	1後④	2		○										兼1
		鉱物工学	2前①～②	2		○										兼1
		地球情報学第二	1後④	2		○										兼1
		地球情報学第三	2前①～②	2		○										兼1
		地熱工学特論	2前①～②	2		○										兼1
		地熱系モデリング	1後④	2		○										兼1
		環境安全特論	2後③～④	2		○										兼1
		資源生産システム学	1後③	2		○										兼1
		岩盤工学特論第二	1後③	2		○										兼1
		開発機械システム工学特論	2前①～②	2		○										兼1
		資源処理・環境修復工学特論第二	1後④	2		○										兼1
		資源処理・環境修復工学特論第三	2前①～②	2		○										兼1
		石油貯留層工学	1後③	2		○										兼1
		物質移動工学特論	2前①～②	2		○										兼1
		地球システム工学特別講義第一	1前①～②	1		○										兼1
		地球システム工学特別講義第二	1後③～④	1		○										兼1
		地球システム工学特別講義第三	2前①～②	1		○										兼1
		応用リスク解析学	1後③～④	2		○				1						兼1
		地球資源システム工学基礎第一	2前①～②	2		○										兼1
	地球資源システム工学基礎第二	1後③～④	2		○									兼1		
	国際プロジェクトマネジメント	2後③～④	2		○									兼1		
	免震制振工学	1後③～④	2		○									兼1		
	水質変換工学	1後③～④	2		○				1					兼1		
	コンクリート工学特論	2前①～②	2		○									兼2		
	構造解析学特論	1前①～②	2		○									兼1		
	地盤解析学	2後③～④	2		○									兼1		
	建設基礎対策学	1後③～④	2		○									兼1		
	災害リスク学	2前①～②	2		○									兼1		
	防災地盤学	2後③～④	2		○									兼1		
	地盤材料力学	1前①～②	2		○									兼1		
	都市総合交通計画	1前①～②	2		○									兼1		
	鋼構造特論	2後③～④	2		○				1					兼1		
	河川工学特論	1前②	2		○									兼1		
	応用生態工学	1後③～④	2		○					1				兼1		
	環境計画論	2前①～②	2		○					1				兼1		
	地下水環境システム論	2前①～②	2		○					1				兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	交通・輸送システム工学	1前①～②		2		○				1					兼7
	国土開発・災害リスクマネジメント	1後③～④		2		○				2					
	船舶運動特論第二	1後③～④		2		○			1						
	船舶抵抗推進特論第二	1後③～④		2		○				1					
	船舶抵抗推進特論第三	2前①～②		2		○			1						
	船舶コンピュータ支援設計製図	1後③～④		2		○			1						
	小計 (57科目)	—	0	111	0		—		4	5	0	0	0	兼38	
高等専門科目	溶接設計第一	1前①～②		2		○								兼1	
	溶接設計第二	1後③～④		2		○								兼1	
	地震工学特論	1前①～②		2		○								兼1	
	空間情報学	1前①		2			○							兼1	
	連続体力学	1前①～②		2		○								兼1	
	応用数理学	1後③～④		2		○								兼1	
	海洋浮体工学特論	1前①～②		2		○								兼1	
	船舶基本設計特論	1前①～②		2		○								兼1	
	船舶海洋構造力学特論	1前①～②		2		○								兼1	
	海洋構造工学	1後③～④		2		○								兼1	
	資源地質学第一	1後③		2		○								兼1	
	鉱物工学実験第一	2前①～②		1				○						兼1	集中
	鉱物工学実験第二	2後③～④		1				○						兼1	集中
	地球情報学第一	1後③		2		○								兼1	
	地球情報学実験第一	1前①～②		1				○						兼1	集中
	地球情報学実験第二	1後③～④		1				○						兼1	集中
	地球熱学特論	1後③		2		○								兼1	
	地熱工学特論実験第一	2前①～②		1				○						兼1	集中
	地熱工学特論実験第二	2後③～④		1				○						兼1	集中
	資源開発工学特論	1前①		2		○								兼1	
	資源開発工学特論実験	2前①～②		1				○						兼1	集中
	資源生産システム学実験	2後③～④		1				○						兼1	集中
	岩盤工学特論第一	1前①		2		○								兼1	
	岩盤工学特論実験第一	1前①～②		1				○						兼1	集中
	岩盤工学特論実験第二	1後③～④		1				○						兼1	集中
	資源処理・環境修復工学特論第一	1後③		2		○								兼1	
	資源処理・環境修復工学特論実験第一	1前①～②		1				○						兼1	集中
	資源処理・環境修復工学特論実験第二	1後③～④		1				○						兼1	集中
	エネルギー資源工学特論	1後③		2		○								兼1	
	エネルギー資源工学特論実験第一	1前①～②		1				○						兼1	集中
	エネルギー資源工学特論実験第二	1後③～④		1				○						兼1	集中
	研究計画法	1前①		2		○			4					兼8	オムニバス
	プレゼンテーションデザイン	1後④		2			○							兼1	
合意形成論演習	1前①		2			○							兼1		
数値解析学	1前①～②		2		○								兼1		
野外調査法	1前①		2			○			1				兼1		
プレゼンテーション演習	1後③		2			○							兼1		
都市工学・経済学	1前①		2		○			1					兼1	隔年・集中	
織装設計工学	1後③～④		2		○								兼1		
船舶運動特論第一	1前①～②		2		○								兼1		
船舶抵抗推進特論第一	1前①～②		2		○								兼1		
船舶海洋流体力学特論	2前①～②		2		○								兼1		
実践データ解析学	1前①		2		○								兼1		
小計 (43科目)	—	0	72	0		—		4	1	0	0	0	兼33		
能力開発特別ス	建設システム工学演習第一	2前①～②・後③～④		2			○							兼2	
	建設システム工学演習第二	2前①～②・後③～④		2			○							兼2	
	建設システム工学演習第三	2前①～②・後③～④		2			○							兼2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
ク ー リ ン グ 科 目	建設システム工学演習第四	2前①～②・ 後③～④		2				○								兼2		
	都市環境システム工学演習第一	2前①～②・ 後③～④		2				○		2								
	都市環境システム工学演習第二	2前①～②・ 後③～④		2				○		2								
	都市環境システム工学演習第三	2前①～②・ 後③～④		2				○		1	1							
	都市環境システム工学演習第四	2前①～②・ 後③～④		2				○		1	1							
	海洋システム工学演習第一	2前①～②・ 後③～④		2				○									兼2	
	海洋システム工学演習第二	2前①～②・ 後③～④		2				○									兼2	
	海洋システム工学演習第三	2前①～②・ 後③～④		2				○									兼2	
	地球資源システム工学演習第一	2前①～②・ 後③～④		2				○									兼2	集中
	地球資源システム工学演習第二	2前①～②・ 後③～④		2				○									兼2	集中
	地球資源システム工学演習第三	2前①～②・ 後③～④		2				○									兼2	集中
	地球工学国際連携特論	1前①～②		2				○		1								集中
	エネルギー資源工学国際連携特論	2前①～②・ 後③～④		2				○		1								集中
	地球環境工学研究企画	1後③～④		2					○	1								集中
	地球資源システム工学国際連携演習	1後③～④		2					○	1								
小計 (18科目)		—	0	36	0			—	6	2	0	0	0			兼20		
広 域 専 門 科 目	建設システム工学特論第一	2後③～④		2				○									兼2	
	建設システム工学特論第二	2後③～④		2				○									兼2	
	建設システム工学特論第三	2後③～④		2				○									兼2	
	建設システム工学特論第四	2後③～④		2				○									兼2	
	都市環境システム工学特論第一	2後③～④		2				○		2								
	都市環境システム工学特論第二	2後③～④		2				○		2								
	都市環境システム工学特論第三	2後③～④		2				○		1	1							
	都市環境システム工学特論第四	2後③～④		2				○		1	1							
	海洋システム工学特論第一	2後③～④		2				○										兼2
	海洋システム工学特論第二	2後③～④		2				○										兼2
	海洋システム工学特論第三	2後③～④		2				○										兼2
	地球資源システム工学特論第一	2後③～④		2				○										兼2
	地球資源システム工学特論第二	2後③～④		2				○										兼2
	地球資源システム工学特論第三	2後③～④		2				○										兼2
	課題解決セミナー第一	1後③		2							2						兼2	共同
課題解決セミナー第二	1後④		2							1						兼1	共同	
小計 (16科目)		—	0	32	0			—	6	5	0	0	0			兼24		
産 学 連 携 科 目	実践維持管理工学	1前①～②		2				○									兼2	
	環境学実習	2前①～②		2				○		1								集中
	海洋システム工学産学連携演習第一	1前①～②・ 後③～④		1				○									兼1	
	海洋システム工学産学連携演習第二	1前①～②・ 後③～④		1				○									兼1	
小計 (4科目)		—	0	6	0			—	0	1	0	0	0			兼3		
共 通 科 目	応用数学A	1・2前①～ ②		2				○									兼1	隔年
	応用数学B	1・2前①～ ②		2				○									兼1	隔年
	応用数学C	1・2前①～ ②		2				○									兼1	隔年
	応用数学D	1・2前①～ ②		2				○									兼1	隔年
	ルベグ積分	1・2前①～ ②		2				○									兼1	
	関数解析	1・2後③～ ④		2				○									兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	国際イノベーション特論	1～2通		4		○									兼1	集中
	国際オープンマインド特論	1～2通		4		○									兼1	集中
	ものづくり科学：粉末冶金原論	1・2前①～②		1		○									兼1	集中
	ものづくり科学：粉末冶金先端加工技術	1・2前①～②		1		○									兼1	集中
	ものづくり科学：セラミックス概論	1・2前①～②		2		○									兼1	
	ものづくり科学：セラミックス解析特論	1・2前①～②		2		○									兼1	
	小計 (12科目)	—	0	26	0	—			0	0	0	0	0		兼7	
合計 (150科目)		—	0	283	0	—			6	5	0	0	0		兼56	
学位又は称号		修士 (工学)			学位又は学科の分野			工学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
<p>修士課程に2年以上在学し、以下の要件を満たす30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、修士課程に1年以上在学すれば足りるものとする。</p> <p>【履修方法】 専攻授業科目について次の単位とその他の関連授業科目についての単位をあわせて30単位以上修得しなければならない。 ※本専攻修士課程で定められた授業科目を専攻授業科目といい、その他の授業科目で指導教員が指定する授業科目（交通科目を含む。）を関連授業科目という。 (1) 先端科目6単位以上 (2) 高等専門科目6単位以上 (3) 能力開発特別スクーリング科目、広域専門科目及び産学連携科目2単位以上</p>							1学年の学期区分		4学期							
							1学期の授業期間		8週							
							1時限の授業時間		90分							

教 育 課 程 等 の 概 要														
(工学府 都市環境システム工学専攻 博士後期課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専攻授業科目	都市システム計画学講究A	1～3通		4					1					
	都市システム計画学講究B	1～3通		4					1					
	環境デザイン工学講究A	1～3通		4					1					
	環境デザイン工学講究B	1～3通		4					1					
	都市環境工学講究A	1～3通		4					1					
	都市環境工学講究B	1～3通		4					1					
	環境システム工学講究A	1～3通		4						1				
	環境システム工学講究B	1～3通		4						1				
	地球環境工学研究企画演習	1～3通		4					1					
	地球環境工学指導演習	1～3通		2					1					
	地球環境工学特別演習	1～3通		2					1					
	産学連携実習	1～3通		4					1					
小計（12科目）	—	—	0	44	0	—	—	—	6	2	0	0	0	
各専攻共通の授業科目	工学研究企画	1～3通	2					○	1					
	グローバルリサーチ特論	1～3通		1			○		1					
	国際コラボレーション特論	1～3通		4			○		1					
	異分野特論Ⅰ	1～3通		2			○		1					
	異分野特論Ⅱ	1～3通		2			○		1					
	キャリア・デザイン	1～3通		2				○	1					
	アントレプレナーシップ・セミナー	1～3通		2				○	1					
小計（7科目）	—	—	2	13	0	—	—	—	1	0	0	0	0	
合計（19科目）	—	—	2	57	0	—	—	—	6	2	0	0	0	
学位又は称号	博士（工学）			学位又は学科の分野			工学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
博士後期課程に3年以上在学し、以下の要件を満たす10単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、博士後期課程に1年以上在学すれば足りるものとする。 【履修方法】 専攻授業科目について次の単位とその他の関連授業科目についての単位をあわせて10単位以上修得しなければならない。 本専攻博士後期課程で定められた授業科目を専攻授業科目と言い、その他の授業科目で指導教員が指定する授業科目（各専攻共通の授業科目を含む。）を関連授業科目という。 1. 専攻授業科目4単位以上 2. 工学研究企画2単位								1学年の学期区分		4学期				
								1学期の授業期間		8週				
								1時限の授業時間		90分				

授 業 科 目 の 概 要			
(工学府 土木工学専攻 修士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
高等専門科目	実践データ解析学	研究能力に必須である統計解析、可視化、それに伴うプログラム処理の基本を取得する。 ・R言語を使用して水・環境データのデータ解析を実践的に学ぶ。 ・データの可視化や解析結果の表現について学ぶ。 ・基本地理データの利用方法を学ぶ。 ・総合演習課題を与え、統計解析とその結果のプレゼンを行う。 (*グローバルコースでも開講)	
高等専門科目	野外調査法	講義の初期に野外調査の基礎知識・安全管理・、応用測量の講義を行い、その後、水域・地盤・構造物の調査について座学で学ぶ。その後、野外実習で実際に測定機器を用いた実習を行う。(*グローバルコースでも開講)	
高等専門科目	研究計画法	研究全般(論文、研究費など)、研究倫理などの研究者としての基礎知識を習得するとともに、土木系の各教授の研究分野の研究手法と具体的な研究プロジェクトを用いた研究計画の例を学ぶ。 (オムニバス方式・共同(一部) 全15回) (9 松田 泰治、8 濱田 秀則/2回) 計測技術の最新の動向や測定の視点などについて考える。 (2 島岡 隆行、10 馬奈木 俊介/3回) 大型研究(異分野融合): 研究の構想、研究の組み立て、研究者の選択、研究進捗のためのマネジメント、成果のとりまとめ (13 矢野 真一郎/2回) 野外調査: 場所の選定の考え方、データのばらつきと繰り返しデータ数、調査の具体的方法など (5 塚原 健一、10 三谷 泰浩/2回) 社会調査あるいはビッグデータの取り扱い (12 安福 敬之、1 久場 隆広/2回) 室内実験: 室内実験で考慮すべきこと、相似則、スケール効果、計測手法、繰り返しなど (7 橋本 典明、3 園田 佳巨/2回) 数値シミュレーション: なぜ数値シミュレーションを用いるのか?、物理モデルと概念モデル、精度、検証、実験とのちがひ、限界と有効性など (6 ハザリカヘマンタ/2回) 災害調査: 野外調査、観測、ヒアリング、アンケート調査、データ分析など (*グローバルコースでも開講)	オムニバス方式
高等専門科目	数値解析学	土木工学に関連する業務において必要となり得る数値解析の基礎を学ぶ。特に、偏微分方程式を数値解析する際に必要となる解析手法と関連した計算方法を学び、現在の研究あるいは将来の仕事における理解を深める。具体的には差分法、有限要素法を学習し、また実際に数値解析する際に必要となる連立一次方程式の解法、非線形連立方程式の解法について演習を通して学ぶ。	
高等専門科目	空間情報学	近年、地理情報システム(Geographical Information System: GIS)は、様々な分野で急速にその応用が進められている。建設分野においても、都市計画、交通計画、自然災害の状況把握、防災・減災対策(洪水、地すべり、斜面崩壊、避難シミュレーション等)、立地選定(ダム、廃棄物処分場等)、環境アセスメントなどで応用が始まっており、今後さらに普及していくものと考えられる。本講義では、GISの基礎的な原理、基本操作技術を学び、これを応用させるための技術を習得することを目的とする。(*グローバルコースでも開講)	
高等専門科目	地震工学特論	地震国である我が国においては、都市防災における地震工学の役割は益々重要になっている。 本講義では、学部で修得した建設振動学の知識を活用して、現代の都市が直面する地震災害に対する防災システムについて、ハードおよびソフトの両面から理解を深め、地震災害に対して取るべきマネジメント能力を養成する。(*グローバルコースでも開講)	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
高等専門科目	都市工学・経済学	インフラストラクチャーに代表される物的なものに加え、人的、自然環境など、多様かつ包括的な社会資本形成のための都市計画や地域政策においては、工学のみならず経済学の知識の重要性が増しつつある。本講義では、都市や地域が直面する社会課題とその解決のための方法について検討するための経済学の知識を習得する。（*グローバルコースでも開講）	隔年
先端科目	構造解析学特論	許容応力度設計から限界状態設計への構造設計法の移行、および新しい耐震設計法の導入などにより、非線形構造解析が設計実務において必須となってきている。この講義では、構造物の弾塑性解析・幾何学的非線形解析とそれらの設計への応用を修得する。（*グローバルコースでも開講）	隔年
先端科目	免震制振工学	土木構造物は、地震や風といった自然現象による外力で振動することになる。この振動を上手に制御する、コントロールする方法について学習をする。（*グローバルコースでも開講）	
先端科目	コンクリート工学特論	1. サステナブルなコンクリート材料に関する化学的知識に関する内容 2. 信頼性の理論に立脚したコンクリート構造物の設計法に関する内容 3. プレストレストコンクリート構造に関する基礎的知識 4. 鋼材の腐食に関する電気化学的理論に関する基礎的知識および電気防食の基礎理論 (*グローバルコースでも開講)	
先端科目	鋼構造特論	鋼構造物の典型的な損傷と維持管理に関する専門知識を学ぶ。講義を通じて、腐食や疲労による経時劣化とそのメカニズム、それらの損傷の補修・補強方法、および様々な溶接継手の疲労寿命の算出方法を理解することができる。（*グローバルコースでも開講）	
先端科目	地盤材料力学	地盤は自然に形成された材料であり、未解明な現象が残されている。また、地盤特有の力学特性を有している。本講義では、砂、粘土、人工材料等の地盤材料の物理的性質や圧密・せん断特性といった基礎的知識を習得し、地盤構造物に対する設計法の理解を深める。また、講義や演習課題、最終プレゼンテーションを通じて、以下の到達目標を達成することを目指す。（*グローバルコースでも開講）	
先端科目	建設基礎対策学	本講義では、構造物基礎の調査・設計・施工で考えるべき事項について習得する。特に、地盤改良に関する基本的な考え方と評価手法を理解し、各種地盤改良工法の原理・現象を具体的に利用するための基礎学力を身につけることを目指す。（*グローバルコースでも開講）	
先端科目	災害リスク学	リスクマネジメントにおける基礎概念および課題を明らかにし、リスクマネジメントのアプローチを学ぶ。定性的なリスクマネジメントとして、1) 日常生活におけるリスクマネジメント、2) 化学物質におけるリスクマネジメント、3) 労災に関するリスクアセスメントなどの方法を学ぶ。また、定量的なリスクマネジメントにおける技法を習得し、演習を通して定量的なリスクマネジメント手法を習得する。さらに、地震リスクと対策、地震による二次災害に関する防災減災技術を把握する。受講者がリスクにおける損害の深刻さと発生の可能性を評価するための概念や確率統計などの基礎知識、リスクを正確に解析する技術、リスクを低減する技術、あるいはコントロールする技術を学べ、実行できることを目的とする。（*グローバルコースでも開講）	
先端科目	地盤解析学	近年のコンピュータの急速な進歩、計算技術の向上は、地盤工学の分野において、地盤材料を非線形型として取り扱う安定解析や変形解析を可能にした。この種の非線形型解析を精度良く行うためには、地盤材料の変形・強度特性の質の高い理解と適切なモデル化が求められる。この講義では、連続体の力学の枠組みの中でなされる地盤材料、特に土のモデル化とその適用方法、例えばモールの円を基礎とした下界法や土の限界状態モデルのモデル化について学ぶ。また、修得した解析法を総合的に活用し、地盤の境界値問題に対して適切な解を導くための素養を身につける。（*グローバルコースでも開講）	
先端科目	防災地盤学	地盤は人間が地球上で生活する場を表現するもので、社会活動そのものに大きくかかわっている。地盤の振動・変状・移動といった異常な現象は直ちに人間社会に影響を及ぼし災害につながる。地盤災害を防止・軽減するためには、地盤に関わる現象に対する技術的成果と人間社会に対する人文社会科学的施策の相互理解に基づく統合的、総合的な対策が必須である。本講義では、地盤災害の歴史と現状、地盤災害の予知・予測と防止及びその対策について学習する。（*グローバルコースでも開講）	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
先端科目	河川工学特論	河川は流域における人間の営みと自然の営力により形成されてきている。本授業では、国内・外の河川についてのトピックスを取り上げ、学生自らがその内容を調べ、相互に意見を交換し、教員からの解説を聞きながら深く河川について理解し、あわせて総合的に河川を理解する能力を獲得する。（*グローバルコースでも開講）	
先端科目	環境水理学	河川流域から沿岸域までを包括した流域圏における環境流体力学の基礎事項を学ぶことを目的とする。主に、水・熱・塩分・土砂の輸送メカニズムの原理と、それらの影響を受ける水質や生態系に関して理解しておくべき内容を学習する。これにより、固有の河川・湖沼・ダム湖・河口域・沿岸域水域などにおいて発生する水環境問題を考える上での基礎知識が修得できる。（*グローバルコースでも開講）	
先端科目	沿岸・海洋工学特論	海の波は海洋・海岸構造物の設計において第一に取り上げられる自然外力である。波は様々な性質を示すが、中でもその不規則性は工学的にも重要な意味を持っている。そこでこの講義では、不規則波の概念を基本に据え、これに基づく耐波設計法の体系を理解するのに必要不可欠な、波浪の統計理論・解析理論・予測理論および極値統計解析理論に関する高度な知識・技術を学ぶ。（*グローバルコースでも開講）	
先端科目	都市総合交通計画	本講義は、都市における交通について、現状や問題点及びそれぞれの交通機関の特性を学びながら都市交通をのあり方を考えていく。交通現象に関してはいくつかの工学的・経済学的理論を学び、近年行われている都市交通政策を検討する。（*グローバルコースでも開講）	
先端科目	実践景観デザイン論	シビルエンジニアリングの世界における景観設計の方法論について、具体的な事例を訪れ、現場から学ぶことが、本講義の目的である。まずデザイナーからの解説を聴き、次に現場を歩き、デザイン意図がどのように実現されているかを体験・確認する。（*グローバルコースでも開講）	
先端科目	社会基盤財政論	社会基盤整備のための、財政的諸課題の現状およびその解決方法を身に着ける。具体的には、プロジェクトファイナンス、社会資本整備への民間資金導入等に際する法律的・財政的知識を習得する。（*グローバルコースでも開講）	
先端科目	廃棄物資源循環学	廃棄物問題は、今後益々深刻になるものと思われる。「廃棄物資源循環学」ではマスマスフロー、廃棄物の発生、処理の現状及び処理技術とその原理を理解すると共に、廃棄物問題が地球環境保全にとって如何に大切かを修得する。廃棄物問題の本質についても解説するとともに、循環型社会の形成における廃棄物のあり方についても述べる。（*グローバルコースでも開講）	
先端科目	環境計画論	公害対策から、循環型社会形成推進、地球温暖化対策といった多様な環境計画、環境政策について具体例に基づいて学びつつ、環境計画の理念、目的を理解し、計画的な環境管理の手法を修得する。（*グローバルコースでも開講）	
先端科目	水質変換工学	先進国においては廃水処理なくして快適な生活環境の維持は考えられない。一方、開発途上国においては、廃水処理は生存のための必須条件の重要な一つとなっている。このような社会的ニーズに対応するためには、技術者として実務的な廃水処理技術を修得する必要がある。本講義では、水処理に関わる知識、特に、生物学的な水質変換や生物学的な廃水処理の基礎的知識、および、Life Scienceや遺伝子工学・生化学的知識の応用、バイオリアクターのシステム制御について学習することを目的とする。（*グローバルコースでも開講）	
先端科目	国土開発・災害リスクマネジメント	本講義では、日本の国土開発・社会基盤整備の歴史を俯瞰的に学ぶとともに、地震・台風・土砂災害や洪水などの各種自然災害に対する防災対策やリスク管理手法について、学内外の講師による最新の知見・情報を修得する。（*グローバルコースでも開講）	
先端科目	地下水環境システム論	様々な物質による地下水汚染、沿岸部地域における塩水化地下水問題、さらには廃棄物（例えば、高レベル核廃棄物）処分問題など、地下水をめぐる課題はますます増加している。さらに地球温暖化による異常気象（豪雨、渇水）や海面上昇に伴う地下水への影響を考慮する必要も出てきている。長期渇水に対する重要な水資源としての地下水の水量・水質の保全対策も急務な課題となっている。従って、これら広範囲に及ぶ諸問題を考えるにあたり、地下水環境をシステムでとらえる必要がある。講義では、上記のような視点から、地下水の水質、地下水土壌汚染全般と各論、災害時の上下水道の水量・水質管理、地下水中の汚染物質輸送特性、地下水の水質形成機構などについて講義する。（*グローバルコースでも開講）	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
先端科目	応用生態工学	生態工学は、生態学と工学が融合した学術分野である。特に、土木工学では、従来の環境修復や自然再生に加え、水や食料の安全保障、自然資源の持続可能な利用、地域づくりにおける自然資本の有効活用、生物多様性条約などの国際的枠組などが重要になっている。座学に加え、動植物の分類、干潟・砂浜の調査、里山の竹の利用などに関する実習も行う。大学院では、生態系管理の持続性、社会システムなどについて、事例にふまえた問題解決の提案までを行う。（*グローバルコースでも開講）	
先端科目	地盤環境システム工学	世の中で様々な環境問題が顕在化している。これまで、この問題に対して我々は傍観していたわけではなく、どの問題に対しても対策が立案され、実行に移されてきた。しかしながら、これらの対策が表面化した問題に対処療法的に依拠するのみで、根本的な解決になっていないことが圧倒的に多いことが今大きな問題を引き起こしている。本講義を通じて、環境問題に対する取組みの多くが表面的・断片的であることを理解し、工学の立場から環境問題をどのように取り扱うべきであるかを学習するとともに、環境と調和した人間活動のあるべき姿を考える。そして、環境問題に対する根源的、体系的理解を深め、人間活動の活発化にともない顕在してきた地球規模にまで及ぶ環境問題を単なる科学技術としての立場ではなく、自然環境や社会環境の中で改めて捉え直し、新しい環境への取組みを検討する。（*グローバルコースでも開講）	
能力開発特別科目	課題解決セミナーA	特定の課題を与え、その解決案を提案させる方式の実践的な講義とする。 与えられた課題に対する解決案をまとめたプロジェクト提案書を作成し、最終プレゼンを行う。作業は各個人の役割を明確にしてグループで分担して進める。	共同
能力開発特別科目	課題解決セミナーB	特定の課題を与え、その解決案を提案させる方式の実践的な講義とする。 与えられた課題に対する解決案をまとめたプロジェクト提案書を作成し、最終プレゼンを行う。作業は各個人の役割を明確にしてグループで分担して進める。本セミナーは基本的に英語で実施する。（*グローバルコースでも開講）	共同
能力開発特別科目	プレゼンテーション演習	英語でプレゼンテーション、質問、司会ができる初歩的な技術を取得する。そのうえで、国内外の学会で、研究成果等について、正しく自分の考えを表現し、活発な議論ができるようなスキルの向上を目指す。（*グローバルコースでも開講）	
能力開発特別科目	プレゼンテーションデザイン	TEDのプレゼンテーション技術（感情に訴える、目新しきを出す、五感に残す）を習得することを目標とし、効果的なプレゼンテーションの方法を取得する。	
能力開発特別科目	合意形成論演習	社会資本整備時の合意形成の基本的な考え方、合意形成の場の設定、ワークショップ（WS）のデザインなどの方法論を深く学ぶ。座学において合意形成の基本的な考え方を学んだあと、グループでの演習を中心とした講義を実施する。	
能力開発特別科目	環境学実習	流域から沿岸の水循環、生態系管理、自然資源の伝統的利用、地域社会、協働について理解を進める。九大伊都キャンパスを核とし、糸島半島の砂浜、干潟や河川での地域住民との自然の管理の実習、ピーチクリーン活動、北部九州の山間地の暮らしの見学などを行う。座学では、生物の分類作業、標本作成作業を行う。（*グローバルコースでも開講）	
能力開発特別科目	実践維持管理工学	高速道路の計画・設計・建設・維持管理に伴う土木工学に関する技術課題を選択し、第一線で活躍中の技術者による講義を受け、現場技術者と一緒に調査・試験等を行い、最後に自分の選択課題に対する成果発表表を行う。	
能力開発特別科目	産学連携研究	土木工学に関連した国内外の企業等に滞在し、現場・プロジェクトなど、実践的な環境の中での実習を行う。実務を体験することで技術者・研究者としての必要な素養を身につけさせる。（*グローバルコースでも開講）	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
能力開発特別科目	社会基盤工学特論第一	コンクリート工学、鋼構造工学に関する理解を深めるため、関連研究についての研究ゼミを実施する。他者との議論の中で、研究内容についての理解を深めるとともに、新たな研究課題を探求する。（*グローバルコースでも開講）	
能力開発特別科目	社会基盤工学特論第二	構造工学、地震工学に関する理解を深めるため、関連研究についての研究ゼミを実施する。他者との議論の中で、研究内容についての理解を深めるとともに、新たな研究課題を探求する。（*グローバルコースでも開講）	
能力開発特別科目	社会基盤工学特論第三	地盤防災工学に関する理解を深めるため、関連研究についての研究ゼミを実施する。他者との議論の中で、研究内容についての理解を深めるとともに、新たな研究課題を探求する。（*グローバルコースでも開講）	
能力開発特別科目	社会基盤工学特論第四	地圏環境工学に関する理解を深めるため、関連研究についての研究ゼミを実施する。他者との議論の中で、研究内容についての理解を深めるとともに、新たな研究課題を探求する。（*グローバルコースでも開講）	
能力開発特別科目	社会基盤工学演習第一	コンクリート工学、鋼構造工学に関する理解を深めるため、最新の研究成果に関するプレゼンテーションを行う。また、授業担当教員の指導のもとで、自身の研究の計画立案・研究の実施・研究成果のとりまとめおよび研究発表などを行う。（*グローバルコースでも開講）	
能力開発特別科目	社会基盤工学演習第二	構造工学、地震工学に関する理解を深めるため、最新の研究成果に関するプレゼンテーションを行う。また、授業担当教員の指導のもとで、自身の研究の計画立案・研究の実施・研究成果のとりまとめおよび研究発表などを行う。（*グローバルコースでも開講）	
能力開発特別科目	社会基盤工学演習第三	地盤防災工学に関する理解を深めるため、最新の研究成果に関するプレゼンテーションを行う。また、授業担当教員の指導のもとで、自身の研究の計画立案・研究の実施・研究成果のとりまとめおよび研究発表などを行う。（*グローバルコースでも開講）	
能力開発特別科目	社会基盤工学演習第四	地圏環境工学に関する理解を深めるため、最新の研究成果に関するプレゼンテーションを行う。また、授業担当教員の指導のもとで、自身の研究の計画立案・研究の実施・研究成果のとりまとめおよび研究発表などを行う。（*グローバルコースでも開講）	
能力開発特別科目	都市環境工学特論第一	都市工学、交通工学に関する理解を深めるため、関連研究についての研究ゼミを実施する。他者との議論の中で、研究内容についての理解を深めるとともに、新たな研究課題を探求する。（*グローバルコースでも開講）	
能力開発特別科目	都市環境工学特論第二	景観学に関する理解を深めるため、関連研究についての研究ゼミを実施する。他者との議論の中で、研究内容についての理解を深めるとともに、新たな研究課題を探求する。（*グローバルコースでも開講）	
能力開発特別科目	都市環境工学特論第三	河川工学、衛生工学に関する理解を深めるため、関連研究についての研究ゼミを実施する。他者との議論の中で、研究内容についての理解を深めるとともに、新たな研究課題を探求する。（*グローバルコースでも開講）	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
能力開発特別科目	都市環境工学特論第四	環境工学に関する理解を深めるため、関連研究についての研究ゼミを実施する。他者との議論の中で、研究内容についての理解を深めるとともに、新たな研究課題を探求する。（*グローバルコースでも開講）	
能力開発特別科目	都市環境工学特論第五	水理学、海岸工学に関する理解を深めるため、関連研究についての研究ゼミを実施する。他者との議論の中で、研究内容についての理解を深めるとともに、新たな研究課題を探求する。（*グローバルコースでも開講）	
能力開発特別科目	都市環境工学演習第一	都市工学、交通工学に関する理解を深めるため、最新の研究成果に関するプレゼンテーションを行う。また、授業担当教員の指導のもとで、自身の研究の計画立案・研究の実施・研究成果のとりまとめおよび研究発表などを行う。（*グローバルコースでも開講）	
能力開発特別科目	都市環境工学演習第二	景観学に関する理解を深めるため、最新の研究成果に関するプレゼンテーションを行う。また、授業担当教員の指導のもとで、自身の研究の計画立案・研究の実施・研究成果のとりまとめおよび研究発表などを行う。（*グローバルコースでも開講）	
能力開発特別科目	都市環境工学演習第三	河川工学、衛生工学に関する理解を深めるため、最新の研究成果に関するプレゼンテーションを行う。また、授業担当教員の指導のもとで、自身の研究の計画立案・研究の実施・研究成果のとりまとめおよび研究発表などを行う。（*グローバルコースでも開講）	
能力開発特別科目	都市環境工学演習第四	環境工学に関する理解を深めるため、最新の研究成果に関するプレゼンテーションを行う。また、授業担当教員の指導のもとで、自身の研究の計画立案・研究の実施・研究成果のとりまとめおよび研究発表などを行う。（*グローバルコースでも開講）	
能力開発特別科目	都市環境工学演習第五	水理学、海岸工学に関する理解を深めるため、最新の研究成果に関するプレゼンテーションを行う。また、授業担当教員の指導のもとで、自身の研究の計画立案・研究の実施・研究成果のとりまとめおよび研究発表などを行う。（*グローバルコースでも開講）	
異分野科目	材料工学A	工学府の他専攻の大学院生を対象とし、材料工学の各種研究分野のうち、製造プロセスに関する講義を行う。特に鉄鋼材料の精錬・製鋼・連続鋳造・圧延といった鉄鋼材料の一連の製造プロセスについて講義を行い、材料工学における基礎的事項を学ぶ。	
異分野科目	材料工学B	工学府の他専攻の大学院生を対象とし、材料工学の各種分野のうち、材料物性に関する基礎的事項について解説する。特に結晶系、格子欠陥、状態図、拡散について解説を行うとともに、エネルギー材料に関する最新の研究トピックスについても紹介する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
異分野科目	応用化学A	<p>(概要) 応用化学分野（特に機能物質化学）の最先端の研究について、分野横断的な視点も取り入れながら、他分野の研究者にも理解しやすいように、体系的に解説する。</p> <p>(オムニバス方式 全8回)</p> <p>(49 林 克郎／2回) ・本講義の概要についての解説。また、セラミックスの特徴を解説しつつ、元素に関する固定概念を取り払うことで見えてくる、材料研究の面白さについて紹介する。 (45 田中 敬二／1回) ・界面に着目した高分子材料の設計方針について学ぶ。 (32 加地 範匡／1回) ・最先端の遺伝子レベルから細胞レベルにまで及ぶバイオ分析・診断技術を解説する。 (27 石原 達己／1回) ・セラミック燃料電池の現状を紹介するとともに、最新の電池の開発を通して、これからの機能性セラミックの果たすべき役割を紹介する。 (61 吉澤 一成／1回) ・量子力学の原理に基づいて分子と固体の電子物性および化学反応を理解する最先端研究に触れる。 (24 安達 千波矢／1回) ・最先端有機光半導体デバイスについて紹介する。 (58 安田 琢磨／1回) ・革新的な有機エレクトロニクスデバイスへの応用、最新の研究事例を紹介する。</p>	オムニバス方式
異分野科目	応用化学B	<p>(概要) 応用化学分野（特に分子システム工学）の最先端の研究について、分野横断的な視点も取り入れながら、他分野の研究者にも理解しやすいように、体系的に解説する。</p> <p>(オムニバス方式 全8回)</p> <p>(51 藤ヶ谷 剛彦／1回) ・ナノカーボン素材を用いた最近の材料開発について表面化学の基礎を交えつつ概説する。 (41 後藤 雅宏／1回) ・新しい経皮浸透薬の開発ストーリーを中心に概説し、界面活性剤の化学を学ぶ。 (36 神谷 典穂／1回) ・アミノ酸やタンパク質についての基礎を学んだ後に、最先端の酵素工学・タンパク質工学を紹介する。 (31 小江 誠司／1回) ・錯体化学の基礎概念を学んだ後に、未踏の錯体化学の挑戦と最先端の成果について紹介する。 (40 君塚 信夫／1回) ・超分子化学についての基礎を学んだ後に、分子集積化学の発展と最新の研究成果について紹介する。 (34 片山 佳樹／1回) ・基礎生化学のエッセンスを学んだ後に、先端の創薬や細胞診断についての開発状況について学ぶ。 (39 木戸秋 悟／1回) ・細胞分化についての生化学を学んだ後に、細胞工学の発展について紹介する。 (46 田中 賢／1回) ・医用高分子材料について概説した後に、医療材料における表面設計の重要性を学修する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
異分野科目	化学工学A	<p>(概要) 環境を、大気、熱、物質、エネルギーといった要素からなる巨大システムとみなすならば、現在問題となっている地球温暖化も含めた環境問題についても、そのシステムを考慮することによって解決の道を見出すことができる。この科目では物理化学、熱工学、プロセス工学、反応工学などからなる化学工学によって、環境を扱う手法について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式 全8回)</p> <p>(47 柘植 義文／2回) ・プロセス設計、システム工学の観点から環境を扱う手法を学ぶ。 (63 岩井 芳夫／1回) ・物理化学の観点から化学工学や環境についての視点を解説する。 (50 深井 潤／1回) ・熱工学の基礎とその手法を通じて、化学工学、環境工学の扱いについて講義を行う。 (37 岸田教授／1回) ・反応工学、化学工学の観点から、環境化学工学について講義を行う。 (75 山本 剛／1回) ・熱工学、数値解析の観点から環境化学工学について、解説する。 (68 名嘉山 祥也／2回) ・数値解析などの手法を通じた環境化学工学について、解説する。</p>	オムニバス方式
異分野科目	化学工学B	<p>(概要) 物理化学、移動現象、反応工学、分離工学などからなる化学工学を生物や材料の分野に適用して、工学的に展開するための基礎学理を学ぶ。また、最新の生物化学工学、材料化学工学の概要を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式 全8回)</p> <p>(35 上平 正道／2回) ・生物をシステムとみなしたシステムや化学工学についての概要を解説する (28 井嶋 博之／1回) ・再生医学などの生物を基礎とした化学工学について解説する (55 三浦 佳子／2回) ・機能性高分子に基づいた化学工学の展開について解説する (33 梶原 稔尚／1回) ・材料創製のプロセスについての化学工学を解説する (73 星野 友／2回) ・生物模倣による材料科学や化学工学の手法を解説する</p>	オムニバス方式
異分野科目	機械工学A	<p>本科目は、機械工学に関する基礎的な内容について講義を行う。この科目では特に、騒音に対して制御音を干渉させることによって抑制する能動音響制御について、理解に必要な基礎的な知識と技術について、デジタル信号処理・適応制御の基礎を中心に学習する。</p>	
異分野科目	機械工学B	<p>本科目は、機械工学に関する基礎的な内容について講義を行う。気体と液体が混ざりあった流れを気液二相流と呼び、工業分野では広く利用されている。この科目では、気液二相流に関する基礎的な知識について、学習する。</p>	
異分野科目	水素エネルギーシステムA	<p>水素エネルギーシステムは、製造、貯蔵・輸送、利用（発電）から構成されるが、いずれも熱・運動量・物質（および電荷）の輸送現象が内在し、高効率、高性能化、あるいは高耐久化にはその現象を理解し、外部操作や機器構造の最適化が必要となる。本講義ではいくつかの課題を取り上げ、要素レベル、あるいはシステムレベルで最適化手法を学ぶ。</p>	
異分野科目	水素エネルギーシステムB	<p>水素エネルギーシステムを学ぶにあたって、水素をはじめとする各種高圧ガスや高圧ガス設備を安全に取り扱うために、各種高圧ガスの性質や高圧ガス設備の設計の基本的な知識について、集中講義形式で学習する。なお、この科目は英語で開講する。</p>	
異分野科目	航空宇宙工学A	<p>(概要) 航空宇宙工学において重要となる、推進工学、流体力学、極限物理工学、強度振動学、軽構造システム工学の基礎を習得する。</p> <p>(オムニバス方式 全8回)</p> <p>(25 安倍 賢一／2回) 流体力学の基礎 (44 高橋 厚史／2回) 極限物理工学の基礎 (57 矢代 茂樹／2回) 強度振動学・軽構造システム工学の基礎 (62 井上 智博／2回) 推進工学の基礎</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
異分野科目	航空宇宙工学B	(概要) 航空宇宙工学において重要となる、誘導・制御工学、飛行力学、宇宙機ダイナミクス、宇宙輸送システム工学の基礎を習得する。 (オムニバス方式・共同 (一部) 全8回) (54 外本 伸治、70 坂東(北野) 麻衣/2回) 誘導・制御工学の基礎 (48 花田 俊也/2回) 宇宙機ダイナミクスの基礎 (71 東野 伸一郎/2回) 飛行力学の基礎 (65 小川 秀朗/2回) 宇宙輸送システム工学の基礎	オムニバス方式 共同 (一部)
異分野科目	量子物理学A	原子炉の基礎理論とこれまでに開発された主要な原子力システムの構成について概説する。次に、過去に経験したスリーマイル事故、チェルノブイリ原発事故、福島第一原子力発電所の事故等について学ぶ。これらを基に大規模システムの管理、安全性についての知識を習得する。併せて技術者倫理の実例や原子力・放射線技術と法規制について概説する。	
異分野科目	量子物理学B	物質が示す多様な物性現象は、様々な工学分野で応用されている。その多様な物性の起源は電子が持つ量子性に帰着でき、それが物質内で様々な形で現れてくる。例えば磁石(強磁性体)は身の回りにあふれているが、強磁性発現のメカニズムを説明するには量子力学は不可欠である。また、リニアモーターカーやMRIで利用される超伝導は、電子の量子性が巨視的スケールにまで発達したものと捉えることができる。更に近年注目を浴びる量子コンピューティングは、量子力学の特色である波動性を計算に利用しようというものである。このように量子力学の工学応用は今後益々発展していくと予想され、応用研究・開発を行っていく上でも物性現象における量子性を意識しておくことは大切である。本講義では、まず量子性について簡単に理解を深めた後、物性現象において垣間見える量子性について、磁性体や超伝導体などいくつかの具体例を交えて解説していく。	
異分野科目	船舶海洋工学A	(概要) 船舶海洋工学に関する基礎的な知識や諸計算法、水上や水中に浮かぶ浮体の平衡とその安定性、船舶の種類と船型、船舶の抵抗と推進性能、船舶の運動性能について講義する。 (オムニバス方式 全8回) (67 金丸 崇/2回) ・船舶に関する諸定義、排水量および諸係数の定義、浮体の平衡とその安定性 (74 山口 悟/2回) ・船舶の種類と船型、船体構造発達史 (26 安東 潤/2回) ・船体抵抗の成分と力学的相似則、船舶の推進性能のメカニズム (53 古川 芳孝/2回) ・船舶の動揺、船舶の操縦性能	オムニバス方式
異分野科目	船舶海洋工学B	(概要) 船舶・海洋構造物に代表される大型鋼構造物の製作に必要な鉄鋼材料を中心とする構造用金属材料の性質とその加工方法、船舶や海洋構造物の構造強度設計に関する基本的な考え方や基礎知識について講義する。 (オムニバス方式 全8回) (42 後藤(長) 浩二/4回) 構造用金属材料の基礎事項、材料強度試験、溶接技術の基礎事項、溶接構造物の強度評価 (59 柳原 大輔/4回) 船舶の構造方式と特徴、船舶の構造強度と安全性、船舶の構造設計手順、船舶に作用する荷重	オムニバス方式
異分野科目	地球資源システム工学A	他専攻の大学院生を対象として、地球資源システム工学における基礎的な知識を学ぶ。この科目では、地球資源システム工学の中でも特に応用地質学、物理探査学、地球熱システム学、エネルギー資源工学についての基礎的な知識を体系的に習得する。	
異分野科目	地球資源システム工学B	他専攻の大学院生を対象として、地球資源システム工学における基礎的な知識を学ぶ。地球資源システム工学の中でも特に資源開発工学、岩盤・開発機械システム工学、資源処理・環境修復工学についての基礎的な知識を体系的に習得する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(工学府 土木工学専攻 博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
講 究 科 目	建設材料工学講究A	コンクリート工学等に関連した博士論文の到達度を向上させるため、関連研究についての研究討論ゼミを実施するとともに、博士論文の研究計画の立案、研究の実施、研究成果のとりまとめや研究発表を行う。 (*グローバルコースでも開講)	
講 究 科 目	建設材料工学講究B	鋼構造工学等に関連した博士論文の到達度を向上させるため、関連研究についての研究討論ゼミを実施するとともに、博士論文の研究計画の立案、研究の実施、研究成果のとりまとめや研究発表を行う。 (*グローバルコースでも開講)	
講 究 科 目	建設設計工学講究A	構造工学等に関連した博士論文の到達度を向上させるため、関連研究についての研究討論ゼミを実施するとともに、博士論文の研究計画の立案、研究の実施、研究成果のとりまとめや研究発表を行う。 (*グローバルコースでも開講)	
講 究 科 目	建設設計工学講究B	地震工学等に関連した博士論文の到達度を向上させるため、関連研究についての研究討論ゼミを実施するとともに、博士論文の研究計画の立案、研究の実施、研究成果のとりまとめや研究発表を行う。 (*グローバルコースでも開講)	
講 究 科 目	防災地盤工学講究A	地盤工学等に関連した博士論文の到達度を向上させるため、関連研究についての研究討論ゼミを実施するとともに、博士論文の研究計画の立案、研究の実施、研究成果のとりまとめや研究発表を行う。 (*グローバルコースでも開講)	
講 究 科 目	防災地盤工学講究B	防災地盤工学等に関連した博士論文の到達度を向上させるため、関連研究についての研究討論ゼミを実施するとともに、博士論文の研究計画の立案、研究の実施、研究成果のとりまとめや研究発表を行う。 (*グローバルコースでも開講)	
講 究 科 目	環境地盤工学講究	地圏環境工学等に関連した博士論文の到達度を向上させるため、関連研究についての研究討論ゼミを実施するとともに、博士論文の研究計画の立案、研究の実施、研究成果のとりまとめや研究発表を行う。 (*グローバルコースでも開講)	
講 究 科 目	都市システム計画学講究A	都市工学等に関連した博士論文の到達度を向上させるため、関連研究についての研究討論ゼミを実施するとともに、博士論文の研究計画の立案、研究の実施、研究成果のとりまとめや研究発表を行う。 (*グローバルコースでも開講)	
講 究 科 目	都市システム計画学講究B	計画学や交通工学等に関連した博士論文の到達度を向上させるため、関連研究についての研究討論ゼミを実施するとともに、博士論文の研究計画の立案、研究の実施、研究成果のとりまとめや研究発表を行う。 (*グローバルコースでも開講)	
講 究 科 目	環境デザイン工学講究A	景観学等に関連した博士論文の到達度を向上させるため、関連研究についての研究討論ゼミを実施するとともに、博士論文の研究計画の立案、研究の実施、研究成果のとりまとめや研究発表を行う。 (*グローバルコースでも開講)	
講 究 科 目	都市環境工学講究A	生態工学等に関連した博士論文の到達度を向上させるため、関連研究についての研究討論ゼミを実施するとともに、博士論文の研究計画の立案、研究の実施、研究成果のとりまとめや研究発表を行う。 (*グローバルコースでも開講)	
講 究 科 目	都市環境工学講究B	衛生工学等に関連した博士論文の到達度を向上させるため、関連研究についての研究討論ゼミを実施するとともに、博士論文の研究計画の立案、研究の実施、研究成果のとりまとめや研究発表を行う。 (*グローバルコースでも開講)	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
講 究 科 目	環境システム工学講究A	環境工学等に関連した博士論文の到達度を向上させるため、関連研究についての研究討論ゼミを実施するとともに、博士論文の研究計画の立案、研究の実施、研究成果のとりまとめや研究発表を行う。（*グローバルコースでも開講）	
講 究 科 目	環境水理学講究	水理学等に関連した博士論文の到達度を向上させるため、関連研究についての研究討論ゼミを実施するとともに、博士論文の研究計画の立案、研究の実施、研究成果のとりまとめや研究発表を行う。（*グローバルコースでも開講）	
講 究 科 目	沿岸海洋工学講究	海岸工学等に関連した博士論文の到達度を向上させるため、関連研究についての研究討論ゼミを実施するとともに、博士論文の研究計画の立案、研究の実施、研究成果のとりまとめや研究発表を行う。（*グローバルコースでも開講）	
講 究 科 目	土木工学研究企画演習	博士論文に関連する研究について、研究ゼミを実施する。研究内容についての理解を深めるとともに、新たな研究課題を探求する。また、博士論文に関する研究計画・プロセスについてまとめる。（*グローバルコースでも開講）	
講 究 科 目	土木工学学指導演習	土木分野で活躍できる技術者・研究者・教育者になるための、土木工学に関する実践的指導力を養う。プロジェクトを実行するために必要なマネジメントの能力を身に着ける。（*グローバルコースでも開講）	
講 究 科 目	土木工学特別演習	土木業界におけるプロジェクト開発の進め方を学び、土木分野で活躍できる先導的技術者・研究者に必要な能力を養う。（*グローバルコースでも開講）	
講 究 科 目	産学連携実習	土木工学に関連した国内外の企業や研究所等に滞在し、現場やプロジェクトなど、実践的な環境の中で、数週間から数ヶ月の実習を行う。実務を体験することで、実社会での課題を探求したり、課題の解決法を学んだりし、技術者・研究者・教育者になるためのさらなる成長を促す。（*グローバルコースでも開講）	
博 士 共 通 科 目	工学研究企画	工学府博士後期課程の共通科目として年に4回「工学研究セミナー」を開催し、ゲストスピーカーによる講演や博士後期課程学生によるポスター発表・口頭発表を行う。本学府に在籍する全専攻の学生が分野を超えて行うポスター発表・口頭発表は、自身の研究分野・研究内容や研究成果がもたらす社会的なインパクトを自身の専門分野以外の学生に分かり易く説明できるようになることに主眼を置く。このような分野を超えた協学の機会を設けることにより、自らの研究内容を分かり易く説明するコミュニケーション能力を涵養する。（*グローバルコースでも開講）	